

奄美群島の海上保安業務 七十年のあゆみ

2024年9月10日

奄美海上保安部・古仁屋海上保安署



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

目 次

- I. はじめに
 - 奄美海上保安部・古仁屋海上保安署創設 70 周年に際して
 - 奄美海上保安部長

- II. トピックス
 - 1 1950 年代
 - 2 1960 年代
 - 3 1970 年代
 - 4 1980 年代
 - 5 1990 年代
 - 6 2000 年代
 - 7 2010 年代
 - 8 2020 年代

- III. 変遷

- IV. 所属巡視船艇

- V. 奄美群島周辺の海図

- VI. 奄美群島の航路標識

- VII. 奄美群島の豊かで美しい海を守る海上保安官を奄美群島から
 - 1 海上保安大学校
 - 2 海上保安学校

I はじめに

奄美海上保安部・古仁屋海上保安署創設 70 周年に際して

奄美群島が日本復帰して間もない昭和 29 年 9 月 10 日に鹿児島海上保安部名瀬・古仁屋警備救難所として開設から今日まで、幾多の苦難を乗り越え、変革を重ねて 70 年間、奄美群島とその周辺海域において、地域の皆様方の安全・安心のために海上保安業務を遂行してまいりました。



この 70 年間、奄美海上保安部、古仁屋海上保安署が滞りなく業務を遂行できておりますのは、海上保安協会奄美支部・奄美瀬戸内支部の各会員、海上保安協力員、海上安全指導員、灯台の灯火監視協力員並びに奄美群島住民の皆様方の海上保安業務への御理解と御協力の賜物と深く感謝いたしております。

近年、我が国周辺海域における情勢は厳しさを増しておりますが、今後とも、奄美群島とその周辺海域の安全安心のため、職員一同、全力で取り組む所存ですので、引き続き海上保安業務への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

令和 6 年 9 月 吉日

奄美海上保安部長 大場 伊佐大

Ⅲ トピックス

◆ 1950年代

✓ 1953(昭和28)

- 12.19 奄美群島の日本復帰に先立って、海上保安庁の灯台補給船「宗谷」は、警察、郵政及び日本銀行などの引継ぎ要員約90人を乗せ、切手及び日本銀行券約9億円を積込み、鹿児島港を出港、21日に奄美大島の名瀬港に入港、関係者と生徒や児童の日の丸を振った大歓迎を受けました。名瀬港で要員の下船と荷物陸揚げ、引き続き、22日には喜界島、23日に奄美大島の古仁屋と徳之島の平土野、24日に徳之島の亀津と沖永良部島の和泊、25日に与論島の茶花で要員の下船と荷物の陸揚げを行いました。運ばれた日銀券は、復帰後に奄美群島内の銀行と郵便局で復帰まで流通していたB円券(占領下の米軍発行の軍票)と交換されました。



名瀬港に錨泊中の「宗谷」(写真:提供才田一男氏)



中高生グラスボートによる「宗谷」入港歓迎(燈光から)

- 12.25 奄美群島が
念願の日本復帰。



古仁屋町内の祝賀会(燈光から)



復帰の喜びに沸く島民 (写真提供:奄美市)

- 12.25 奄美群島を第七管区海上保安本部 鹿児島海上保安部が管轄。
名瀬航路標識事務所開設(里見海運ビル借上げ)、琉球政府から11の航路標識を移管(名瀬港導灯、立神灯台、辨天埼灯柱、名瀬港A浮標、名瀬港1号、2号、3号、4号、5号浮標、梵論瀬埼灯台、曾津高埼灯台)。

✓ 1954(昭和 29)

- 7.2 名瀬港が重要港湾に指定。
- 9.10 鹿児島海上保安部 名瀬警備救難署(久保井ビル借上げ)及び古仁屋警備救難署開設。
- 9.26 青函連絡船洞爺丸遭難。



開設時の名瀬警備救難署と職員

✓ 1955(昭和 30)

- 3.30 戦争中の昭和 20 年 3 月に曾高崎灯台から撤去し山中に埋設疎開されたレンズが西古見小学校の奉安殿に保管されていることを確認。戦後、地域の人々が掘り出して保管。
- 8.1 巡視艇「そよかぜ」(CL03 15m 型)が名瀬警備救難署に配属。
- 8.10 名瀬警備救難署が名瀬海上保安部に昇格、古仁屋警備救難署が古仁屋海上保安署に改組、巡視艇「わかづき」(PC19 23m 型)が古仁屋海上保安署に配属。



奉安殿と曾津高崎灯台レンズ 2 面(燈光から)

- 12.3 名瀬の大火で市街地の多くが焼失、海上保安部庁舎(借上げ)消失。巡視船「たつた」が長崎港から鹿児島港経由で名瀬港まで救援物資を輸送。



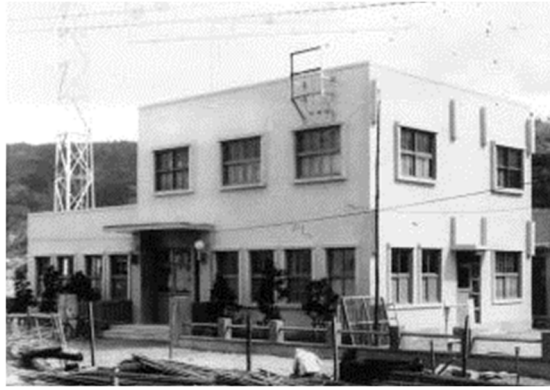
12.3 名瀬の大火



借上げ庁舎焼失

✓ 1956(昭和 31)

- 1. 23 名瀬海上保安部が 2 階建ての単独新庁舎へ入居。



完成した名瀬海上保安部庁舎



(参考) 昭和 31. 1 頃の古仁屋海上保安署

- 8. 22 名瀬港大型岸壁(長さ 80m)が完成
これまで名瀬港では乗下船や貨物の積降に舢舨を使用していましたが、関西汽船の沖縄航路「黒潮丸」が新たに完成した大型岸壁への試験着岸に成功すると、約 5 千人もの観衆から大きな歓声と拍手があがりました。



名瀬港大型岸壁(長さ 80m)が完成 関西汽船の沖縄航路「黒潮丸」が試験着岸

- 11. 12 名瀬海上保安部通信所を開設、業務開始
名瀬の大火で殆どの通信機を焼失しましたが、補充して業務を開始。

- 11. 20 奄美大島海事合同庁舎完成
(現在の港湾合同庁舎)
名瀬海上保安部の単独庁舎に増設して 3 階建ての合同庁舎が完成しました。名瀬の大火で焼け出された、検疫所、入国管理事務所、海運局及び食糧事務所が新たに入居。



奄美大島海事合同庁舎

✓ 1957(昭和 32)

- 4. 15 古仁屋港の吉田岸壁（長さ 80m）が完成、大型旅客船「高千穂丸」が初めて着岸。



古仁屋港に着岸した高千穂丸



昭和 32 年当時の古仁屋港

- 5. 17 奄美大島南東沖 111km の第三旭洋丸の船内で殺人事件が発生。

- 5. 28 台湾から東京に向かっていた旅客船「ピンターン号」(3300 トン) が、視界不良のために横当島北西の上之根島に乗り揚げ。

- 7. 20 名瀬～徳之島(亀津～面縄)～沖永良部(和泊)間の電話が開通。

- 8. 10 名瀬海上保安部に名瀬航路標識事務所を統合、名瀬海上保安部が奄美群島の灯台などの航路標識の管理を開始。



上之根島に乗り揚げたピンターン号

✓ 1958(昭和 33)

- 5. 16 全国ではテレビ受像機 100 万台突破。なお、奄美でテレビ放送が始まるのは 5 年後。

- 12. 9 徳之島の亀徳港に「亀徳港南防波堤灯台」が完成。



亀徳港南防波堤灯台(燈光から)

- 12. 27 瀬戸内町古仁屋の大火で市街地の多くが焼失。



(広報せとうち 2022年12月号から)

✓ 1959(昭和34)

- 1. 10 瀬戸内町の皆津埼に大島海峡北東口を示す皆津埼灯台が完成。



皆津埼灯台

- 4. 10 皇太子殿下が美智子さまと御成婚

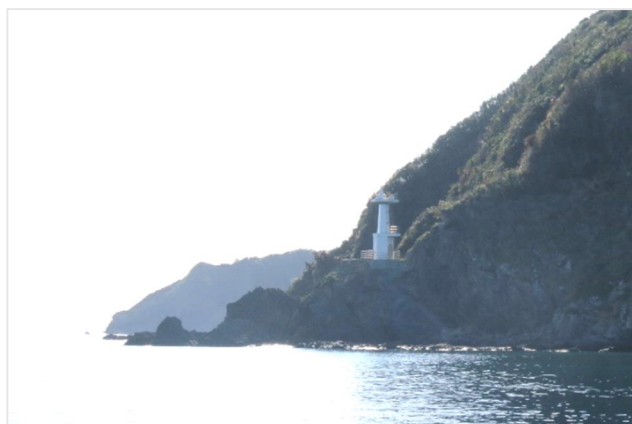
- 5. 22 古仁屋海上保安署の新庁舎(初代)が完成。



(昭和34年当時の古仁屋港)

- 12. 1 沖縄から米国製ココア25梱包を与論島茶花港へ密輸入した事件を検挙。

- 12. 18 瀬戸内町の待網埼に大島海峡南東口を示す待網埼灯台が完成。



待網埼灯台

◆ 1960年代

✓ 1960(昭和35)

- 5.4 チリ地震津波、南米チリで発生した地震で、約17000km離れた奄美の家屋約1800棟に床上又は床下浸水が発生。



津波で浸水した家屋や道路 (写真提供 名瀬測候所)



名瀬港湾合同庁舎付近

- 4.1 トリスウィスキー2ダースを第2八光丸で密輸出、船長を検挙。
- 7.16 ネスコーヒー644本や時計などを定期船あけぼの丸で密輸入した旅客を検挙。
- 8.11 ネスコーヒーや時計などを定期船高千穂丸で密輸入した旅客を検挙。
- 9.10 カラーテレビ放送開始、なお、奄美でTV放送が開始されるのは3年後。

✓ 1961(昭和36)

- 2.6 宇検村安室の船が帰港遅延、巡視船「やはぎ」と巡視艇「そよかぜ」が搜索、大山崎沖で機関故障し漂流中を発見、曳航救助。
- 3.10 大島海峡の通峡の指標となるオネン埼灯台が完成。



オネン埼灯台

- 4.12 ガガーリン、史上初の有人宇宙飛行。
- 9.17 第2室戸台風で大きな被害を受けた奄美群島全域に災害救助法が適用され、巡視船「いき」が毛布や衣料品などの救援物資を輸送、18日には巡視船「くさがき」と「きたがみ」が救援物資を輸送。

✓ 1962(昭和 37)

- 1. 1 第十管区海上保安本部発足。
- 2. 23 徳之島空港が開港。
- 2. 28 与論島に奄美群島で初めて電源に太陽電池(日本で4番目)を使用した与論港灯台が完成。
- 3. 31 奄美大島最北端の笠利埼に電源に発動発電機を使用した笠利埼灯台が完成。
- 9. 13 大島海峡で、機帆船T丸(245 トン)を沈没させ、保険金 380 万円を騙取し、積荷を横領した船長を業務上横領等で検挙。
- 9. 30 台風 21 号の接近中、釣りに出かけた 2 人乗りの船が行方不明に、海上保安庁の航空機と巡視船艇が捜索、2 日後に瀬戸内町の曾津高埼沖で航行中の貨物船に救助され、巡視船「さつま」で無事帰島。



✓ 1963(昭和 38)

- 6. 10 NHK名瀬テレビ中継放送所が開局、総合チャンネルの放送を開始。
- 7. 8 外国製コーヒーと紅茶(30 万円相当)、ウイスキー120 ケース(200 万円相当)を密輸出した奄美大島と与論島の住民 4 人を関税法違反で検挙。
- 11. 23 ジョンFケネディ アメリカ合衆国大統領が暗殺、映像は世界初の太平洋横断衛星中継によって日本国内でTV放映。

✓ 1964(昭和 39)

- 1. 17 名瀬港で、旅客船「あけぼの丸」(467 トン)が錨泊中の貨物船「豊国丸」(604 トン)に衝突、「豊国丸」が沈没、巡視船「せんだい」と巡視艇「そよかぜ」が漂流中の豊国丸乗組員 18 名全員を救助。
- 5. 26 沖縄から時計、宝石等約 2340 万円相当を密輸入し、阪神方面に売りさばいていた旅客船H丸機関長等数人を関税法違反で検挙。
- 6. 1 奄美空港が開港。
- 10. 10 東京オリンピックが開幕。

✓ 1965(昭和 40)

- 古仁屋港防波堤灯台が完成
- 3. 29 巡視船「あまみ」(PM62)が奄美海上保安部に配属。
- 4. 1 与論島の茶花に与論港導灯が完成



巡視船「あまみ」



与論港導灯

- 6. 9 瀬戸内町の一本釣り漁船が行方不明、海上保安庁の航空機と巡視船艇が捜索、横当島付近で漂流しているのを航空機が発見、巡視船「あまみ」が曳航救助。
- 12. 18 日韓国交正常化



亀徳港導灯

✓ 1966(昭和 41)

- 3. 24 徳之島町の亀徳港に亀徳港導灯が完成。
- 6. 16 名瀬～喜界島間の定期船「くれない丸」が機関故障で漂流、巡視船「あまみ」が急行し喜界島の湾港向け曳航、「くれない丸」は曳航中に機関復旧し自力で湾港に入港。
- 12. 24 名瀬市の1本釣り漁船(11人乗組)が台湾付近で操業を終え鹿児島向け航行中、久米島の北約20kmの鳥島付近で遭難、29日に巡視船「あまみ」が鳥島に泳ぎ着いた乗組員を発見、米軍に救助を要請、米軍ヘリが10人を救助。

✓ 1967(昭和 42)

- 3. 12 和泊町の和泊港に和泊港導灯が完成。
- 4. 4 奄美大島南方で操業中の漁船「52 源福丸」(89ト)、11名乗組)が、船名不明の中国船に衝突され沈没、1名死亡、10名が行方不明。
- 4. 13 喜界島中里海岸で、漁船「第23 黒潮丸」(874ト、59名乗組)が座礁、巡視船「あまみ」が乗組員全員を救助。
- 9. 7 沖縄南西海域を航行中の汽船D丸(2,641ト)の船内で、出刃包丁で船長を刺殺した司厨員を殺人罪で逮捕。



和泊港導灯

✓ 1968(昭和 43)

- 3.7 龍郷村安木屋場の漁船(1.8 トン)が行方不明、9 日、喜界島沖で機関故障により漂流中を巡視船「さつま」が発見、曳航救助。
- 4.2 瀬戸内町古仁屋の漁船(2.36 トン)が機関故障で漂流、請島沖で巡視艇「わかづき」が発見、曳航救助。
- 4.22 高知県のカツオマグロ漁船(39 トン、14 名乗組)が小宝島沖の岩礁に激突、沈没。緊急通信を受けて巡視船「あまみ」が急行、救命筏で漂流中の乗組員全員を救助。
- 5.1 喜界空港が開港。
- 5.3 3 月 21 日就航した鹿児島～奄美群島航路の新造貨客船「あまみ丸」(1600 トン、乗客乗員 115 名)が沖永良部島から徳之島へ航行中に機関故障で漂流。巡視船「あまみ」が古仁屋港まで曳航救助。

- 10.28 平土野港突堤灯台が完成



- 12.10 南シナ海の貨物船 H 丸(2999 トン)内で、機関員から殴打され、憤慨して機関員をナイフで刺殺した甲板員を殺人罪で逮捕。
- 12.23 奄美大島でダイナマイト密漁、住民 4 名を水産資源保護法違反等で検挙。

✓ 1969(昭和 44)

- 2.4 女島の南西約 460 km で漁船「第 8 照生丸」(101 トン、12 名乗組)が、荒天のため転覆、2 名死亡、10 名行方不明。
- 5.1 沖永良部空港が開港。
- 7.21 アポロ 11 号月面着陸、人類が初めて月面に足跡をしるす。
- 10.25 古仁屋海上保安署の巡視艇「わかづき」が解役、新たに巡視艇「うらづき」(PC18)が配属。

◆ 1970 年代

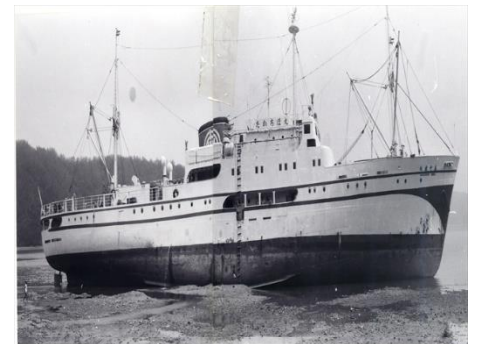
✓ 1970(昭和 45)

- 1.1 奄美大島近海で M6.1 の地震。
- 3.16 笠利湾で荒天により避泊中の貨物船(631 トン、12 名乗組)が風に流され立神岩近くに座礁、巡視船「あまみ」が乗組員全員を救助。
- 3.31 日航機「よど号」事件。
- 4.14 兵庫県城崎沖で底引き漁船風の不審船が追跡中の巡視艇に銃撃。
- 5.9 与論港の茶花地区に長さ 80m の岸壁が完成、大島運輸「あまみ丸」(1,600 トン)が初着岸。



茶花地区に定期船が初着岸

- 8.13 台風 9 号が猛威。照国郵船の貨客船「高千穂丸」(1,070 トン)が瀬戸内町久慈海岸に座礁。巡視船「いき」が救援物資などを名瀬港まで輸送。
- 10.27 古仁屋海上保安署の巡視艇「うらづき」が解役、新たに巡視艇「はつづき」(PC11)が配属。



久慈海岸に座礁した高千穂丸

✓ 1971(昭和 46)

- 2.18 不定期船「波の上丸」(2,372 トン、乗客乗員 534 名)が、名瀬港入港の際に主機関の空気自動操縦弁が破損脱落、直撃を受けた乗組員 1 名が死亡、1 名が左腕左足骨折。
- 3.3 与論島の東端に与論島赤埼灯台が完成
- 5.16 大島海峡で写真撮影中のヘリコプターが墜落、操縦士を航空法違反等で検挙。
- 8.2 薩川湾で台風避泊中の汽船(2,977 トン)の乗組員 2 名を、古仁屋港で漁船を使用窃盗容疑と関税法の指定地以外上陸及び検疫法違反でも検挙。
- 12.3 喜界島の北端にトンビ埼灯台が完成



与論島赤埼灯台



トンビ埼灯台

✓ 1972(昭和 47)

- 2. 3 札幌オリンピック開幕。
- 5. 15 沖縄が日本復帰、沖縄県発足。
- 3. 15 徳之島の北東端に金見埼灯台と金見埼トンバラ岩照射灯が完成。
- 7. 23 迷走台風 7 号の影響で船の欠航が続き、食糧の米が底をついた喜界島に、鹿児島県の要請で巡視船「あまみ」が米 7.5 トンを緊急輸送。
- 7. 24 6 月 4 日～6 月 27 日の間に奄美大島西部海域でダイナマイトを使用してムロアジ 50kg を採捕した住民 1 名を検挙。
- 9. 13 鹿児島県肝属郡戸崎付近で、濃霧のなか神戸から名瀬向け航行中の大島運輸「波之上丸」(1943 トン) が暗礁に座礁。
- 9. 22 名瀬海上保安部巡視艇「そよかぜ」が解役。
- 9. 29 巡視艇「はるかぜ」(CL15 15m 型) が名瀬海上保安部に配属。
- 9. 29 日中国交正常化



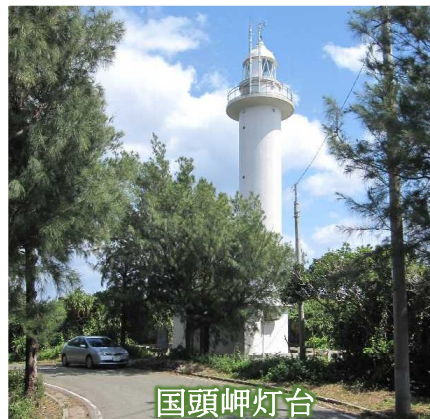
金見埼灯台



巡視艇「はるかぜ」 CL15

✓ 1973(昭和 48)

- 2. 12 沖永良部島北端に国頭岬灯台が完成。
- 2. 16 徳之島の南端に喜念埼灯台が完成
- 3. 25 奄美大島枝手久島の原油基地進出計画反対の海上デモの警戒を実施。
- 7. 12 龍郷町でダイナマイト密漁、住民 3 名を検挙。
- 7. 22 沖永良部島の和泊港に 5 千トン岸壁が完成、大島運輸の「ひかり」(3200 トン) が初着岸。
- 10. 13 古仁屋海上保安署の巡視艇「はつづき」が解役。
- 10. 31 巡視艇「ほしかぜ」(CL139 15m 型) が古仁屋海上保安署に配属。



国頭岬灯台



喜念埼灯台



巡視艇「ほしかぜ」 CL139

- 11.6 奄美大島海域で、無許可で珊瑚やイセエビ等を採捕した沖永良部島の住民4名を検挙。
- 11.29 カーフェリー「クインコーラル」(4994 トン)の船内で3件の連続窃盗の容疑者を緊急逮捕。

✓ 1974(昭和49)

- 1.1 名瀬港が20年間の関税法の開港の幕を閉じて、不開港へ。
- 3.15 沖永良部島の北西端にヤクニヤ埼灯台が完成
- 3.16 徳之島の北西端に与名間埼灯台が完成



- 3.23 奄美大島の龍郷町の竜郷港阿丹埼北東方照射灯が完成



- 10.18 名瀬海上保安部の巡視艇「はるかぜ」解役、新たに巡視艇「はるかぜ」(CL151 15m型)が就役。



巡視艇「はるかぜ」CL151

✓ 1975(昭和50)

- 2.8 大島海峡の薩川湾で荒天避泊中の「リオ・トレーダー」(パナマ船籍1,997トン、25名乗組)で、積荷(ラワン材1510本)が荷崩れ沈没、巡視艇「ほしかぜ」が乗組員全員を救助、ラワン材400本と重油約10klが流出。
- 2.21 喜界島東方海域で、漁船「財宝丸」(19トン、5名乗組み)が操業中に通信が途絶え、船体、乗組員とも行方不明。
- 3.25 名瀬市内で、名瀬海洋少年団(団員38人)の結団式。

- 3.25 喜界島南端のシツル埼灯台が完成

- 3.26 瀬戸内町の中央公民館で瀬戸内海洋少年団(団員47人)の結団式と市内パレード。



- 3.28 奄美大島の笠利湾入口、龍郷町の今井埼灯台が完成



- 4.30 サイゴン陥落、ベトナム戦争終結。

- 5.10 照国郵船の「クイーンコーラル2」(7000ト)就航、大き過ぎて奄美群島で接岸できるのは名瀬港だけ。

- 6.3 喜界島沖で操業中のマグロ延縄漁船(69トン)内で、同僚を出刃包丁で刺殺した甲板員を殺人罪で逮捕。



✓ 1976(昭和51)

- 3.18 奄美大島の大和村の大山埼灯台が完成

- 3.25 喜界島の湾港の湾港導灯が完成。

- 5.1 与論島の与論空港が開港。

- 7.19 無許可で深海珊瑚密漁の高知県籍の珊瑚漁船8隻を検挙。



- 8.27 与論島で航空写真撮影中の小型機が海上へ墜落、搭乗者全員が負傷、操縦士を航空法等違反で検挙。

- 11.10 天皇陛下在位50周年。

✓ 1977(昭和52)

- 6.11 笠利沖で、神戸からフィリピンのマニラ向け航行中のパナマ船籍(4000ト、38名乗組)が火災で航行不能に、巡視船「あまみ」が乗組員全員を救助。

- 7.1 領海が3海里から12海里に変更、排他的漁業水域200海里を設定。

- 9.11 台風9号で被災した沖永良部島に巡視船「あまみ」が救援物資等を輸送。

- 9.12 奄美の日本画家 田中一村が死亡、享年69歳。

- 12.4 沖永良部島沖の作業船内で、同僚を刺し重傷を負わせた作業員を検挙。

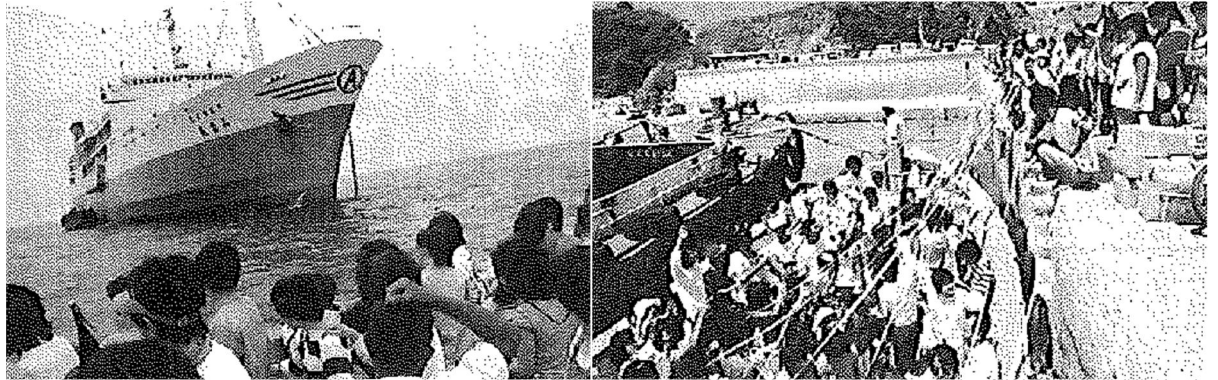
✓ 1978(昭和53)

- 2.9 徳之島沖で珊瑚密漁の静岡県清水市の漁船2隻と高知県高知市の1隻を検挙。

- 8.30 与論島で行われた郡民体育大会に喜界島から出場した選手らが、帰路、大島運輸「奄美丸」の故障によるドック入りのため名瀬港で足止め、喜界町の要請で巡視船「あまみ」が選手団 50 名を名瀬港から喜界島の湾港まで緊急輸送。

✓ 1979(昭和 54)

- 1.1 アメリカ合衆国と中華人民共和国が国交回復。
- 1.4～5 喜界島沖で巡視船「あまみ」などが、深海密漁の台湾漁船 3 隻を捕捉、検挙。
- 5.8 これまで、旅客の乗下船や貨物の荷役に舢舨を使用していた与論港の供利地区に 5 千トン岸壁が完成、「あけぼの丸」と「クイーンコーラル 1」が初着岸。



1977 年の与論港の舢舨を使った旅客の乗下船と荷役(写真提供 与論町)

- 7.28 名瀬海洋少年団と瀬戸内海洋少年団が、鹿児島市内で行われた海洋少年団全国大会に参加。
- 12.11 12 月 9 日に古仁屋港を出港した遊漁船(4.4m、1 名乗組)が行方不明、海上保安庁の航空機、巡視船艇、警察艇、自衛艦や地元漁船が捜索、機関故障で漂流中を航空機が発見、自衛艦「あただ」と巡視船「さつま」が救助。

◆ 1980 年代

✓ 1980 (昭和 55)

- 8.2 笠利埼沖のサンドン岩付近で珊瑚密漁の台湾漁船団を巡視船「あまみ」と巡視艇「はるかぜ」が追跡、2 隻を捕捉、船長を外国人漁業規制に関する法律違反の現行犯で逮捕。
- 8.21 沖縄東方の公海上で火災を起こし航行不能となったソ連の原子力潜水艦が、タグボートに曳航されて沖永良部島と与論島間の日本国領海を通過、海上保安庁が巡視船と航空機で警戒。
- 7.13 徳之島空港に初めてジェット便が運航。
- 8.* 名瀬海洋少年団が、熊本県三角町で行われた海洋少年団南九州大会で、総合 1 位入賞。



✓ 1981 (昭和 56)

- 3.19 巡視艇「いそなみ」(PC217 30m 型)が名瀬海上保安部に配属。
- 3.27 巡視艇「いそなみ」が草垣島近海で珊瑚密漁した台湾漁船 1 隻を捕捉。
- 10.15 沖永良部島の知名港に指向灯が完成。
- 5.3 徳之島の亀徳港から徳之島南方の漁場に向かった漁船「第 2 白鷺丸」(1 トン、3 名乗組)が消息不明。2 ヶ月後の 7 月 4 日、長崎県五島列島福江島の沖合で、航行中の漁船が、船首を海面から突きだして漂流している第 2 白鷺丸を発見し通報、巡視船が急行したが全員行方不明。
- 8.1 喜界沖で漁船が火災、SOS 発信後、乗組員 13 人全員が 2 隻のゴムボートで脱出、巡視艇「いそなみ」がゴムボートで漂流中の全員救助。
- 7.19 23 日から神戸～沖縄航路就航予定の大島運輸の新造船「あかつき」(4990 トン、RORO 船)が、試験航海で名瀬港に初着岸。



✓ 1982 (昭和 57)

- 1.15 船体に亀裂が発生し浸水したため、大島海峡へ向けて避難航行中のパナマ籍貨物船(2900 トン、乗組員 23 人)が徳之島の北西約 28km で沈没、巡視船「あまみ」が乗組員全員を救助、積荷のラワン材が流出。
- 2.27 名瀬港の新港地区に 1 万トン級 2 隻が同時着岸可能な岸壁が完成。

- 4.13 喜界島西方で北東に長さ 14.4 キロメートル、幅 10-50 メートルにわたってビルジを垂れ流していたリベリア籍貨物船(6416 トン、35 人乗組)の機関士らを書類送検。
- 5.25 横当島付近の領海内で、巡視艇「いそなみ」が珊瑚密漁の台湾漁船 2 隻を捕捉、検挙。
- 7.17 横当島付近の領海内で、巡視船「あまみ」と巡視艇「いそなみ」が珊瑚密漁の台湾漁船 8 隻を捕捉、乗組員 57 人を逮捕。

✓ 1983(昭和 58)

- 4.15 東京ディズニーランドが千葉県浦安市に開園。
- 6.8 横当島に上陸、陣笠貝 90 キロを採捕した台湾漁船乗組員 8 名を巡視船「あまみ」が現行犯逮捕。
- 6.22 横当島付近の日本の領海内で、巡視艇「いそなみ」が操業中の台湾漁船を捕捉、乗組員 5 人を領海侵犯等で現行犯逮捕。
- 8.5 奄美大島北方のサンドン岩付近の日本の領海内で、巡視船「いそなみ」が、珊瑚を採捕した台湾漁船 3 隻を捕捉、乗組員 17 人を現行犯逮捕。
- 8.22 8 月 21 日、早朝、喜界島の荒木漁港から船で釣りに出かけて行方不明となった 2 人を、巡視船艇、海上保安庁の航空機や地元漁船 14 隻が捜索、巡視船「あまみ」が喜界島の南西約 34km で機関故障のため漂流中を発見、約 22 時間ぶり救助。
- 9.1 ソ連、サハリンで大韓航空 007 便を撃墜。

✓ 1984(昭和 59)

- 3.27 奄美大島の西約 430km で、パナマ籍ヨット(6 人乗り組み)のメインマストが折れ航行不能で救助要請。海上保安庁の航空機 2 機と巡視船 2 隻が捜索、28 日、航空機がヨットを発見、巡視船「あまみ」が曳航救助。
- 10.2 大和村の漁船(1.26 トン)が機関故障で漂流、海上保安庁の航空機と巡視船艇が捜索、巡視艇「はるかぜ」が曳航救助。
- 10.2 名瀬海上保安部創立 30 周年記念式典と総合訓練を実施。
- 10.7 沖永良部島の伊延港に 1 万トン岸壁が完成。

✓ 1985(昭和 60)

- 3.17 筑波科学万博が開幕。
- 5.27 奄美大島笠利埼の北東約 20km の領海内で、巡視船「あまみ」と巡視艇「いそなみ」が不法操業の台湾漁船 5 隻を捕捉、船長 5 人を現行犯逮捕。
- 6.11 名瀬港で冷凍鮭鱒を密輸入しようとした漁船の乗組員 3 人を検挙。
- 8.12 日航ジャンボ機が群馬県の御巣鷹山に墜落。
- 8.31 日本籍冷凍運搬船(3616 トン、21 名乗組)が、台風 13 号避難、漂泊中、機関故障で流されて加計呂麻島南西の須子茂離のリーフに乗揚げ。
- 11.22 奄美大島笠利埼の北北東約 14km で、巡視艇「いそなみ」が不法操業中の大中型巻き網船団 4 隻を確認、漁労長を現行犯逮捕、4 隻を名瀬港へ連行。



6.11 冷凍鮭鱒の密輸入

✓ 1986(昭和 61)

- 1.28 アメリカのスペースシャトル「チャレンジャー号」爆発事故。
- 5.22 トカラ列島横当島北東の領海内で、巡視船「あまみ」と巡視艇「いそなみ」が不法操業中の台湾延縄漁船 2 隻を捕捉、名瀬港へ連行、船長を逮捕。
- 7.26 与論港沖で巡視艇「いそなみ」が漁船を立入検査、与論島や徳之島近海で禁漁期間中に伊勢エビを密漁した沖縄県の漁船の乗組員を検挙。

✓ 1987(昭和 62)

- 3.6 加計呂麻島の漁業関係者からの通報で、古仁屋保安署巡視艇「ほしかぜ」が出動、瀬戸内町諸鈍沖 2km で近海で取った底物魚を積んでいた台湾漁船 2 隻を不法操業で警告処分、3 隻に対し嚴重注意。
- 3.14 日本の南極商業捕鯨終了。
- 3.31 住用村の戸玉港から喜界島の早町漁港へ向かっていた砂利運搬船(199.8 トン、3 名乗組)が住用村市崎北東沖 20km で浸水のため沈没、ゴムボートで脱出した乗組員 3 名を巡視艇「いそなみ」が救助。
- 4.1 国鉄民営化

- 8.6 名瀬市朝仁海岸で帆走中のディンギー型ヨットが転覆、乗員2名が海に投げ出されたが、友人の通報で巡視艇「いそなみ」が急行、2名を救助。
- 8.11 笠利埼の北83kmの沖合で龍郷漁協所属漁船(1.41ト)、1名乗組)が機関故障で漂流、付近航行船舶からの通報で、海上保安庁の航空機や巡視船艇が搜索、巡視艇「いそなみ」が名瀬港に曳航救助。
- 8.18 奄美大島笠利埼沖の大島新曾根付近(領海内)で台湾漁船操業の地元漁船の通報で、巡視艇「いそなみ」が急行し台湾漁船を捕捉、船長を現行犯逮捕。

✓ 1988(昭和63)

- 1.14 龍郷町円で、コンクリートミキサー車の洗浄残渣コンクリートを、海面に不法投棄した4業者36名を検挙。
- 3.2 大島海峡の西口を示す、瀬戸内町の曾津高埼灯台の建替が完成。
- 4.8~7 荒天下、奄美大島大和村の思勝港を鹿児島県川内港向け出港した貨物船「第5富山丸」(198ト、5名乗組)が消息不明、海上保安庁の航空機3機と巡視船4隻が搜索、乗組員2名死亡、3名行方不明。
- 5.28 名瀬商港岸壁に係留中の静岡県下田漁協所属の漁船(59ト、7名乗組)からA重油ドラム缶20本分が海上に流出。漁船乗組員と奄美海上保安部の職員が吸着マットや毛布で流出油の回収を16時間行うとともに、油処理剤を散布しながらバキュームカーで吸引。
- 7.10 新奄美空港開港 ジェット化 昭和58着工~約5年、総工費272億円。



曾津高埼灯台

✓ 1989(昭和64・平成元)

- 1.7 昭和天皇崩御。
- 4.1 消費税導入。
- 3.16 与論港供利指向灯が完成。
- 5.28 名瀬海上保安部通信所を廃止。
- 9.10 遊漁のため瀬戸内町篠川港を出港した漁船「第55城山丸」(5ト、2名乗組)が行方不明。
- 11.19 東西ドイツのベルリンの壁が崩壊。



与論港供利指向灯

◆ 1990 年代

✓ 1990(平成 2)

- 11.12 天皇陛下が即位の礼。

✓ 1991(平成 3)

- 1.17 中東で湾岸戦争が勃発。
- 4.9 奄美大島西方沖の旅客船内で、喧嘩のうへ同僚を刺して、負傷させた旅客船乗組員を緊急逮捕。
- 6.6 長崎県の雲仙普賢岳で大規模火砕流。
- 6.15 フィリッピン・ルソン島のピナツボ火山が 20 世紀最大の噴火。
- 8.14 徳之島北西の領海内でベトナム難民船を発見、巡視船「あまみ」が徳之島の平土野港に曳航し調査、乗っていた 59 名は巡視船「さつま」で鹿児島市へ移送。

✓ 1992(平成 4)

- 2.21 広島から売却先のインドネシア向け回航中のフェリー「ナトラシーズ I」(インドネシア船籍、499 トン、13 名乗組) が、浸水のため喜界島の湾港に避泊しようとして座礁。



- 3.19 奄美大島の笠利町の赤木名港に導灯が完成。



- 7.9 和歌山県で中国人を不法上陸させ、逃亡中の台湾漁船「金順興」の乗組員 6 名と船内に隠れていた手配役の中国人 3 名を逮捕。

- 9.2 巡視船「あまみ」(初代) 解役。

- 9.28 巡視船あまみ(PM95 350 トン型) (二代目) 就役。



✓ 1993(平成 5)

- 6.2 皇太子殿下、雅子様とご成婚。
- 7.29 喜界島沖で「FUGAS」(パナマ船籍 3903 トン、20 名乗組)が荒天のため浸水、乗組員は全員救命筏で脱出、巡視船「あまみ」が全員救助、1 名死亡。
- 8.8 グアム地震発生、津波警報発令、漁協等の関係先に警戒を呼びかけ、巡視船艇を名瀬港沖に配置して警戒。名瀬港の潮位は 25cm 降下。

✓ 1994(平成 6)

- 2.19 横当島に不法上陸した、中国漁船「ビン獅漁 2753」(127 トン、14 名乗組)の乗組員 5 人を緊急逮捕。
- 3.19 沖永良部島の和泊町の伊延港に伊延港導灯が完成(エラブユリをデザインした形状)。
- 6.18 エキサイティング壱岐の覚せい剤大量密輸事件(徳之島、150kg)。
- 9.4 関西国際空港が開港。
- 12.12 第八玉漁丸の大麻密輸事件(徳之島)。



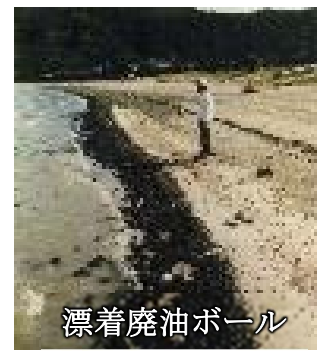
✓ 1995(平成 7)

- 1.17 阪神淡路大震災。
- 1.31 日本水難救済会与論救難所(所長 与論町長)が発足。
- 2.10 喜界島の早町港東防波堤灯台が完成



- 3.20 地下鉄サリン事件。
- 10.18～19 奄美大島近海地震(M6.7)が発生、喜界島で震度 5 を記録、現地調査の結果 2m～2.7m の津波の遡上を確認。ヘリコプター搭載巡視船 1 隻を含む巡視船 2 隻、巡視艇 3 隻を配備警戒。

- 10. 24 喜界島の海岸にコカイン約 9kg が漂着。
- 12. 1 笠利町屋仁海岸に大量の廃油ボールが漂着、捜査の結果タンカー（42263 トン）が排出したと判明、一等航海士を逮捕。



漂着廃油ボール

✓ 1996 (平成 8)

- 3. 12 監視取締艇「ぱるさあ (SS45)」古仁屋海上保安署に配属。
- 4. 12 沖縄の普天間基地の全面返還で日米合意。
- 5. 4 奄美大島笠利埼北方のサンドン岩付近でダイビング中の 10 名が行方不明、海上保安庁のヘリコプターと巡視船艇が捜索、全員を救助。
- 7. 13 大阪府の小学校 33 校で 0-157 食中毒。
- 8. 13 「OCEAN BRAVE」(ベリーズ船籍、342 トン、10 名乗組) が荒天のため曾津高埼付近の海岸に座礁、海上保安庁のヘリコプターが乗組員全員を救助、燃料油の抜き取り実施、船体の撤去は不可。
- 10. 17 名瀬海上保安部巡視艇「はるかぜ」が解役。
- 11. 1 巡視艇「はるかぜ」(CL92 20m 型) が名瀬海上保安部に配属。
- 11. 1 古仁屋海上保安署巡視艇「ほしかぜ」が解役。
- 11. 18 巡視艇「ほしかぜ」(CL93、20m 型) が古仁屋海上保安署に配属。



監視取締艇「ぱるさあ」



巡視艇「はるかぜ」CL92



巡視艇「ほしかぜ」CL93

- 12. 17 ペルー日本大使館公邸占拠事件。

✓ 1997(平成 9)

- 1. 2 日本海で「ナホトカ号」が沈没、大量の流出油が沿岸に漂着。

- 1. 13 奄美大島の名瀬港東防波堤灯台が完成



名瀬港東防波堤灯台

- 2. 28 日本水難救済会和泊救難所(所長 和泊町長)と日本水難救済会知名救難所(所長 知名町長)が発足。

- 4. 1 消費税 5%スタート。

- 12. 7 奄美大島の笠利埼沖の領海内で不審な船を停船させて、乗船していた中国人密航者 72 名全員を不法入国容疑で現行犯逮捕。

- 12. 16 小笠原の漁民が小笠原聳島に漂着したサバニ型漁船を発見、船名等から平成 8 年 10 月 10 日に与論島茶花港を出港したまま行方不明の漁船「第二川田丸」(1 名乗組)と判明。

✓ 1998(平成 10)

- 2. 7 長野冬季オリンピックが開幕。

- 7. 7 日本水難救済会喜界救難所(所長 喜界町長)が発足。

- 8. 24 喜界島シツル埼南方のウガミ礁でダイバー 2 名が行方不明、日本水難救済会喜界救難所員が発見、救助。

- 10. 26 風速 15m の荒天下、奄美大島から徳之島に向かったプレジャーボート(2 名乗組)が徳之島の金見埼北東沖で推進器故障のため漂流、巡視艇「ほしかぜ」が徳之島の平土野港まで曳航救助。

✓ 1999(平成 11)

- 2. 8 笠利埼～宇検村の奄美大島西岸と徳之島西岸に大量の廃油ボールが漂着。

- 3. 23 日本海で 2 隻の不審船。

- 3. 26 喜界島の湾港の湾港北防波堤灯台が完成。



湾港北防波堤灯台

- 8. 12 日本水難救済会天城救難所(所長 天城町長)が発足。

◆2000年代

✓ 2000(平成12)

- 3.22 鹿児島県水難救済会が発足。
- 9.7 龍郷町の海岸で珊瑚不法採捕の1人を逮捕、後日、関係者3人を検挙。
- 10.2 奄美大島近海でM5.9の地震発生、悪石島で震度5強を観測。
- 11.1 鹿児島県水難救済会伊仙救難所(所長 伊仙町長)が発足。

✓ 2001(平成13)

- 2.9 ハワイ州オアフ島沖で愛媛県立宇和島水産高校の実習船「えひめ丸」がアメリカの原子力潜水艦に衝突されて沈没、9名が死亡。
- 3.12 東京から志布志へ向けて航行中のフェリー「ありあけ」の船内で乗客1名を、他の乗客2名に暴行を加えた傷害罪で通常逮捕。
- 7.10 コカイン漂着事件(沖永良部島)。
- 7.18 古仁屋海上保安署新庁舎(二代目)が完成。
- 9.11 アメリカで大規模テロ、世界貿易センタービルに旅客機激突。
- 12.9 奄美大島でM6.0の地震、住用村で震度5強を観測。
- 12.22 九州南西海域工作船事案発生、工作船からの銃撃で巡視船「あまみ」、「きりしま」と「いなさ」が被弾。



古仁屋海上保安署新庁舎



工作船を追跡する巡視船「いなさ」



工作船

✓ 2002(平成 14)

- 2. 15 鹿児島県水難救済会宇検救難所(所長 宇検村長)が発足。
- 4. 16 鹿児島県水難救済会名瀬救難所(所長 名瀬市長)が発足。
- 4. 24 鹿児島県水難救済会瀬戸内救難所(所長 瀬戸内町長)が発足。
- 5. 1 奄美群島海上保安協会が設立。
- 7. 1 鹿児島県水難救済会徳之島救難所(所長 徳之島町長)が発足。
- 8. 7 巡視艇「いそなみ」特定潜水指定船に、特定潜水土 3 名が配置。
- 8. 10 名瀬漁協所属の漁船が名瀬の北方約 50km 機関故障で航行、巡視艇「はるかぜ」が名瀬港へ曳航救助。
- 9. 11 九州南西海域工作船事案の工作船「長漁 3705」を引揚げ。



✓ 2003(平成 15)

- 1. 24 沖永良部島南西岸沖で沖縄県の漁業者 5 名を潜水器密漁で現行犯逮捕。
- 2. 1 スペースシャトル「コロンビア号」爆発事故。
- 11. 3 1 日に喜界島の湾港を出港し行方不明の喜界島漁協所属漁船が、約 700km 離れた高知県吉川村沿岸の消波ブロックに無人乗揚げ状態で発見。
- 11. 15 奄美群島日本復帰 50 周年記念式典等に出席される天皇、皇后両陛下の警衛のため、第十管区海上保安本部に警衛本部、名瀬海上保安部に現地対策本部設置、17 日まで、名瀬港とその周辺海域を巡視船艇や航空機で警衛。

✓ 2004(平成 16)

- 3. 24 名瀬海上保安部巡視船「あまみ」が佐世保海上保安部へ配属替え。
- 4. 21 巡視船「かいもん」(PS204 220 トン型)が名瀬海上保安部へ配属。
- 6. 12 海上保安庁の潜水土を主人公とする映画「海猿」の劇場公開が開始。



巡視船「かいもん」PS204

- 7.30 名瀬港で巡視船「さつま」体験航海、718名の島民の皆様が参加。



- 10.23 新潟県中越地震。

- 10.24 名瀬・古仁屋地区の医療関係者と洋上救急訓練。



- 12.26 インドネシアのスマトラ島北端沖で大地震、広範囲な津波被害。

✓ 2005(平成 17)

- 1.31 龍郷漁港で、鹿児島県水難救済会の名瀬、笠利、龍郷、大和、住用の各救難所と奄美海上保安部が合同海難救助訓練。
- 2.9 尖閣諸島の魚釣島灯台を国有化、昭和63年に政治団体が設置した灯台の譲渡を受けた漁業者が所有権放棄、民法の規定で国庫帰属財産となり、政府の判断で海上保安庁が管理開始。
- 3.27 宇検村湯湾で、鹿児島県水難救済会宇検救難所と宇検村役場職員(合計40名)と古仁屋海上保安署巡視艇「ほしかぜ」が合同海難救助訓練。
- 8.8 奄美大島の名瀬港で巡視船艇の体験航海と展示訓練を実施、島民の皆様700名が参加。9日、徳之島の平土野港で実施、637名の島民の皆様が参加。10日に沖永良部島の伊延港で実施、476名の島民の皆様が参加。11日に与論島の茶花港で実施、241名の島民の皆様が参加。9月23日に喜界島の湾港で実施、150名の島民の皆様が参加。



- 10.8 パキスタン大規模地震災害、死者約8万人。

- 10.15 古仁屋港で、小型船安全協会、瀬戸内町教育委員会、鹿児島県水難救済会瀬戸内救難所、瀬戸内漁業協同組合、消防分署や古仁屋海上保安署及び巡視艇「ほしかぜ」が合同海難救助訓練。

✓ 2006(平成 18)

- 3.31 笠利町、名瀬市、住用村が合併して奄美市が誕生。

- 8.14 奄美大島の名瀬港で巡視船艇の体験航海と展示訓練を実施、571名の島民の皆様が参加。15日に与論島の茶花港で実施、169名の島民の皆様が参加。16日に沖永良部島の伊延港で実施、271名の島民の皆様が参加。



- 10.14 北朝鮮の核実験等に伴う制裁措置として、北朝鮮船籍の全船舶の入港禁止、北朝鮮からの全品目の輸入禁止と北朝鮮籍を有する者の入国禁止措置。

✓ 2007(平成19)

- 1.18 名瀬港港湾計画による海面埋立で名瀬港第一防波堤灯台が惜しまれつつ廃止、3月7日に撤去。



(写真 村上建設(株) 提供)

- 3.1 船舶安全法のトカラ列島の沿海区域と奄美群島の沿海区域の間の区域で、東経128度50分と129度50分の線に囲まれた区域がこれまでの近海区域から沿海区域に変更。

- 3.2 名瀬港で、大島地区消防組合と巡視船「さつま」「くだか」「かいもん」及び巡視艇「いそなみ」ならびに海上保安庁の航空機が合同救助訓練。



- 4.1 名瀬海上保安部から奄美海上保安部へ名称変更。

- 7.16 NPO法人ポートタウンあまみ主催「海から見たみなとまち名瀬」で巡視艇「いそなみ」の体験航海などを行い、児童と保護者約80名が参加。



- 8.18 奄美大島の名瀬港で巡視船艇の体験航海と展示訓練を実施、761名の島民の皆様が参加。19日に徳之島の平土野港で実施、641名の島民の皆様が参加。



✓ 2008(平成 20)

- 7.6 瀬戸内町阿木名沖で戦時中の不発弾発見、6月25日に付近住民の避難と国道58号の通行止め後、海上自衛隊が水中爆破処理。



- 8.4 奄美大島の名瀬港で巡視船艇の体験航海と展示訓練を実施、842名の島民の皆様が参加。6日に与論島の茶花港で実施、217名の島民の皆様が参加。7日に沖永良部島の和泊港で実施、481名の島民の皆様が参加。8日に徳之島の平土野港で実施、704名の島民の皆様が参加。



- 11.15 奄美瀬戸内海洋少年団(瀬戸内町11名、宇検村17名)の結団式。



✓ 2009(平成 21)

- 3.16 巡視艇「はるかぜ」が奄美海上保安部から第四管区中部空港海上保安航空基地へ配属替え。
- 3.21 巡視艇「ほしかぜ」が古仁屋海上保安署から第四管区中部空港海上保安航空基地へ配属替え。
- 3.31 巡視艇「うけゆり」就役、古仁屋海上保安署へ配属、4月8日に古仁屋港へ初入港。



- 6.2 皆既日食に備え、観光と地域振興での受入態勢と想定される交通・環境問題等への対応のため、奄美市長を会長とし、奄美海上保安部など関係18機関等の長で構成する「2009 皆既日食奄美市実行委員会」を設立。
- 7.1 第十管区海上保安本部管内で船舶自動識別装置(AIS)を利用した、船舶動静把握と事故防止(乗揚げや錨泊中の走錨等)のための情報提供業務開始。

- 7.21～22 皆既日食について、関係機関が連携して、事前周知や各種訓練などの事故防止対策を展開した結果、大きな混乱も無く終了。



- 8.22 喜界島の湾口で巡視船艇の体験航海と展示訓練を実施、450名の島民の皆様が参加。23日に奄美大島の名瀬港で実施、1287名の島民の皆様が参加。24日に奄美大島の古仁屋港で実施、266名の島民の皆様が参加。



- 9.3～ 大隅群島と吐噶喇列島付近で多数の流木が確認、第十管区海上保安本部に「南九州沿岸域流木対策本部」を設置、約40日間にわたり、関係機関と協力して、流木の調査・揚収と航行船舶へ注意喚起。

◆ 2010 年代

✓ 2010(平成 22)

- 8.7 鹿児島県水難救済会の徳之島救難所、天城救難所、伊仙救難所と巡視艇「いそなみ」が、船舶曳航、溺者救助、心肺蘇生等の合同訓練を実施。



- 8.14 徳之島の平土野港で巡視船「おおすみ」による体験航海と展示訓練を実施、644名の島民の皆様が来訪。15日は奄美大島の名瀬港で「おおすみ」による体験航海と展示訓練を実施、1298名の島民が来訪。



- 9.7 尖閣諸島中国漁船衝突事件。

- 9.24 龍郷漁港番屋地区で、奄美大島北部排出油防除協議会が海上防災訓練。



救助

心肺蘇生

消火

オイルフェンス展張

- 10.12 7月19日に奄美市笠利町土盛海岸で発生したリーフ内での海浜事故を契機に奄美海上保安部と大島地区消防組合が「水難事故の際の相互協力の覚書」を締結。



- 10.20 奄美市住用地区を中心に奄美全域で集中豪雨発生、土砂崩れなどで交通遮断、海上から警察や消防職員及び急患を搬送。
(写真 住用の城トンネル付近)



- 12.12 10月の豪雨災害を契機に、古仁屋港で古仁屋海上保安署、瀬戸内警察署、大島地区消防組合瀬戸内分署、陸上自衛隊、海上自衛隊、瀬戸内町医師会、瀬戸内町などが豪雨災害対応訓練。



✓ 2011(平成 23)

- 1.18 奄美地区スキューバダイビング安全対策協議会(25事業者)と奄美海上保安部及び大島地区消防組合が心肺蘇生、AED取扱や潜水事故者救助など合同訓練を実施。



- 1.28 灯台の光源を電球から発光ダイオードにしたことで、役目を終えた与論島の赤崎灯台のレンズを与論町へ譲渡、16日に徳之島の与名間埼灯台のレンズを天城町へ、17日に沖永良部島のヤクニヤ埼灯台のレンズを知名町へ譲渡。



与論町



天城町



知名町

- 3.11 東日本大震災。

- 11.2 瀬戸内町で集中豪雨発生、瀬戸内町の要請で古仁屋海上保安署が加計呂麻島へ水、毛布、食料などの緊急援助物資搬送。



- 12.19 古仁屋港のフェリー岸壁で、古仁屋海上保安署、大島地区消防組合瀬戸内消防分署、瀬戸内警察署、瀬戸内町など関係機関43名がフェリー「かけろま」を使用して旅客船事故対応訓練。



巡視艇から移乗



負傷者搬送



乗客避難誘導

✓ 2012(平成 24)

- 7.16、20 相次ぐ豪雨災害で大島地区消防組合が新たに船外機付きゴムボートを導入、名瀬港で巡視艇「いそなみ」の潜水士らと合同水難救助訓練。



- 8.18 巡視船「はやと」による体験航海と展示訓練を沖永良部島の伊延港で実施、551名の島民の皆様が参加。19日は奄美大島の名瀬港で実施、1575名の島民が来訪。



- 8.28 台風15号で高知山AIS局への道路が崖崩れで寸断、徒歩で2時間かけて発電機燃料を運搬補給。



✓ 2013(平成 25)

- 12.9 巡視艇「うけゆり」が古仁屋海上保安署から指宿海上保安署へ配属替え。
- 12.13 巡視艇「いそなみ」が奄美海上保安部から古仁屋海上保安署へ配属替え。
- 12.20 巡視船「あまぎ」が下田海上保安部から奄美海上保安部へ配属替え。潜水指定船を「いそなみ」から「あまぎ」へ変更。

- 12.25 奄美群島日本復帰60周年、奄美市が祈念式典、名瀬港観光船バースで巡視船「あまぎ」が電飾、巡視船「かいもん」が満船飾。



「あまぎ」電飾



「かいもん」満船飾

✓ 2014(平成 26)

- 1.10 巡視船「あまぎ」配属記念式典開催、第十管区海上保安本部長が挨拶、奄美海上保安部長が式辞、県議会議員金子万寿夫様をはじめ御来賓の皆様へ祝辞を賜り、「あまぎ」船長が謝辞、乗組員一同が奄美群島の安全安心に全力で取り組むことを宣誓。翌日は「あまぎ」を一般公開、746名の島民が来訪。



- 1.30 新造巡視艇「いそなみ」が古仁屋海上保安署へ配属、2月18日に東京から古仁屋港へ到着。



- 2.20 巡視艇「いそなみ」就役披露式開催、奄美海上保安部長が式辞、第十管区海上保安本部長と古仁屋海上保安署長が挨拶、県議会議員金子万寿夫様をはじめ御来賓の皆様へ祝辞を賜り、「いそなみ」船長が謝辞、乗組員一同が奄美群島の安全安心に全力で取り組むことを宣誓。



- 5.1 名瀬港に、これまで最大の大型クルーズ船「SUN PRINCESS」(イギリス籍 77441ト)が寄港。入港前の2月から「船舶航行安全対策調査専門委員会」を開催、安全対策を検討。



- 6.2 日本赤十字社鹿児島支部と鹿児島及び串木野ならびに奄美の海上保安部は、海難や災害発生時の合同救護活動の相互協力に関する協定を締結。



✓ 2015(平成 27)

- 5.7 名瀬港に、大型クルーズ船「コスタ・ビクトリア」(イタリア籍、75166ト)が寄港。



- 7.16～31 全国海難防止強調運動、古仁屋海上保安署は、古仁屋小学校1年の程さんを一日海上保安署長に委嘱、巡視艇「いそなみ」で海上パトロール、事故防止を呼びかけ。



巡視艇「いそなみ」



一日海上保安署長の呼びかけ

- 9.13 徳之島の平土野港で、14日、与論島の茶花港で巡視船「あまぎ」を一般公開、多くの島民、子供らが来訪。



- 9.16 海上保安協会奄美支部役員の南政吾様が海事功労で海上保安庁長官表彰を受賞、奄美海上保安部長が伝達。



- 11.5 名瀬港で「大島北部排出油等防除協議会」会員 19 機関 90 名が参加して名瀬港海上防災訓練を開催、タンカーから油が流出した想定で油防除、負傷者救助、火災船消火訓練等を実施。



流出油防除



負傷者救助



火災船消火

- 11.22 名瀬港観光バースで、奄美市制 10 周年を記念して奄美市など主催の「おしごとテーマパーク・奄美子供タウン」が開催、巡視船「いそなみ」を公開、多くの子供らが参加。



✓ 2016(平成 28)

- 2.9 第三無限丸、七海丸による覚せい剤大量密輸事件(徳之島、100kg)
- 3.22 名瀬港沖防波堤灯台が完成



- 4.14、16 熊本県で震度7の地震、家屋倒壊などで多数の死傷者発生、巡視船「あまぎ」は16日に三角港で、17日～26日、5月1日～4日熊本新港で、給水車へ給水支援と住民の入浴支援。4月18日、巡視船「かいもん」は奄美市援助物資等輸送に従事。



「あまぎ」被災地支援



「かいもん」物資輸送

- 4.26 第十管区海上保安本部長が奄美群島で新たに4名の海上安全指導員を指定、28日、奄美海上保安部長が海上安全指導員指定証、手帳を手交。



- 7.12 奄美群島の水難事故での協力のため、12日に奄美海上保安部と大島地区消防組合及び奄美警察署ならびに瀬戸内警察署と「水難救助に関する覚え書」を締結、9.12には徳之島で、9.12には沖永良部島で締結。



- 8.28 名瀬港で奄美市防災訓練に参加、巨大地震津波発生の想定で、海上保安庁のヘリコプターによる漂流者吊上げ救助、海中転落者救助と消防救急隊へ引継ぎ、巡視船による給水車へ給水支援等の訓練を実施。



✓ 2017(平成 29)

- 4.1 喜界消防分署に水難救助隊が発足、奄美海上保安部長が発足式に出席、今後も海上保安庁潜水士と連携、喜界地区の救助能力向上を目指すことを約束。



- 4.3～8 徳之島伊仙町の犬田布岬での「第50回戦艦大和を旗艦とする特攻艦隊戦没将士慰霊祭」に三笠宮彬子女王殿下がお成り、奄美海上保安部は巡視船「あまぎ」等で周辺海域を警衛。



- 11.3 笠利埼灯台を一般公開、272名が参観



- 11.12 大和村の恩勝港で巡視船「かいもん」が大和村防災訓練に参加、地震津波発生を想定し、避難周知、漂流者捜索救助や孤立住民搬送等の訓練を実施。



✓ 2018(平成 30)

- 1月6日、中国の上海沖合い約290kmの海上でパナマ船籍のタンカー(85462ト)と香港船籍の貨物船(41073ト)が衝突、タンカーに火災が発生、1月14日にタンカーは沈没、乗組員3名が死亡、29名が行方不明。巡視船「あまぎ」及び「さつま」等が乗組員の捜索や流出油の防除等に従事。



黒煙をあげて激しく燃えるタンカー

- 4.1 第十管区海上保安本部管内で初めての女性船長が、巡視艇「いそなみ」に着任。



- 6.24 徳之島の亀徳港で巡視船「あまぎ」を一般公開、2時間の公開で320名の島民が来訪。



- 7.16 「海の日」に名瀬港と周辺で巡視船「あまぎ」の体験航海と巡視船「かいもん」と巡視艇「いそなみ」による捕捉訓練や海上保安庁の航空機の展示飛行を実施、午前と午後あわせて281名の島民が来訪。



「あまぎ」体験航海

「かいもん」「いそなみ」捕捉訓練

展示飛行

- 8.24 台風19号の被害を受けた十島村の復旧のため、巡視船「さつま」と「かいもん」が、九州電力とNTT職員及び復旧用資材を鹿児島市から中之島と口之島まで搬送。



- 9.6 北海道胆振東部地震発生、最大震度7。

- 10.28 名瀬港観光船バースで、巡視船「あまぎ」と「かいもん」が奄美市防災訓練に参加、漂流者救助、座礁船から遭難者のブリッジライン救助、消防と連携した消火訓練等実施。



ブリッジライン救助

消防車と巡視船が連携した消火

- 11.18 名瀬港観光船バースで奄美市など主催のお仕事テーマパークにあわせて巡視船「さつま」を一般公開、1221名もの島民が来訪。



レジャー興味津々

子供達も協力して救助訓練

- 12.2 与論島の茶花港で巡視船「あまぎ」を一般公開、3時間の公開で223名もの島民が来訪。



制服試着

潜水士体験

✓ 2019(平成31・令和元)

- 1.3 石井啓一 国土交通大臣が奄美海上保安部で巡視船「あまぎ」の訓練等を視察、大臣自らブリッジライン救助訓練※に参加。



※ 座礁船から遭難者を救助するための訓練。

- 5.18 種子島・屋久島地方で大雨災害、屋久島で登山者314名が孤立、21日まで、巡視船「あまぎ」等4隻が人員や支援物資の輸送と給水支援等実施。



- 5.1 天皇陛下のご即位を祝い、巡視船「あまぎ」と「かいもん」の満船飾、名瀬港東防波堤灯台に万国旗装飾。



- 7.11 宮崎県の漁船「正漁丸」(5名乗組)が行方不明海難発生、12日、巡視船「おおすみ」と「かいもん」が乗組員5名全員救助、奄美大島北西沖の上ノ根島に座礁、船体は大破。

- 7.18 奄美市内で「第24回海の日」の式典が開催、海事功労で、海上保安協会奄美支部役員の有村忠弘様が海上保安庁長官表彰を、海上保安協会瀬戸内支部役員の渡立様が第十管区海上保安本部長表彰を受賞。



- 11.17 名瀬港観光バースで名瀬市など主催のお仕事テーマパーク 2019 に併せて巡視船「あまぎ」を一般公開、多くの市民が来訪。



- 12.24 2018.9.29~30の台風24号で倒壊した名瀬港西防波堤灯台が復旧。



復旧した灯台



復旧前



場所

◆2020年代

✓ 2020(令和2)

- 2.3 横浜港に入港したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」(英国籍、115875ト)で新型コロナウイルス感染症のクラスター確認。



- 4.7 埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫及び福岡に、「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」(新型インフルエンザ等対策特別措置法)。

- 奄美海上保安部、大島地区消防組合、鹿児島県立大島病院、国民健康保険大和診療所、(公財)大島郡医師会、奄美市、鹿児島県名瀬保健所の7機関が、巡視船による感染症患者の本土への緊急搬送訓練を6月8日に巡視船「かいもん」で、7月15日に巡視船「あまぎ」で実施。



感染症患者の県本土への緊急搬送訓練

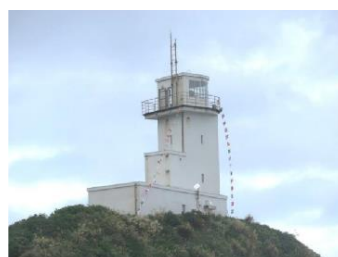
- 7.23 「海の日」にあたり、海上保安協会奄美支部支部長として10年以上の永きにわたり、海難防止、海洋環境保全及び海上保安思想の普及に貢献された、奄美市長の朝山毅様が海上保安庁長官表彰を受賞、奄美海上保安部長が伝達。



- 9.12 龍郷町立円小学校が海をきれいにする功績で海上保安庁長官表彰を受賞、奄美海上保安部長が伝達。



- 11.8 文仁親王が皇嗣になったことを国内外に宣明する「立皇嗣宣明の儀」の祝意奉表で笠利埼灯台に万国国旗掲揚と巡視船「かいもん」が満船飾。



- 12.2 米盛弘幸様が、永年にもわたる早町港東防波堤灯台の監視協力の功績で海上保安庁長官表彰を受賞、喜界町役場で奄美海上保安部長が喜界町長立会いのもと伝達。

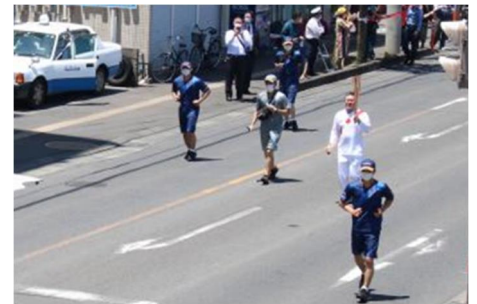


✓ 2021(令和3)

- 1.21 奄美大島西方の日本の排他的経済水域で海上保安庁の航空機が操業中の韓国漁船を確認、巡視船「かいもん」「とから」「こしき」が追跡、捕捉、船長を無許可操業の現行犯で逮捕。



- 4.27 奄美群島で初めて、東京オリンピックパラリンピック聖火リレーを奄美文化センターから市役所まで実施。



- 7.16 「海の日」に、龍郷町立龍北中学校が海をきれいにする活動の功績で国土交通大臣表彰、海上保安協会奄美支部役員の叶隆典様が海事功労で海上保安庁長官表彰を受賞。



龍北中学校の皆様

叶隆典様

- 7.26 奄美大島、徳之島、沖縄、西表島がユネスコの世界自然遺産に登録。
- 10.12 小笠原諸島南方の海底火山「福德岡ノ場」から噴出した大量の軽石が、約1300km離れた奄美群島に漂着。海上保安庁は、航空機や巡視船で軽石の漂流状況を調査し、船舶へ情報の提供と注意喚起を実施。



名瀬港の漂着軽石



「福德岡ノ場」の新島



2021.10.12 海上保安庁HPから

- 11.3 奄美大島の北端を標す海の道しるべとして1962年3月に設置されてから60周年を迎える笠利埼灯台を特別公開、海上保安庁の航空機もローパス、絶好の公開日和に奄美大島内外から302名が参観。



60番目来場者「うみまるぬいぐるみ」贈呈

✓ 2022(令和4)

- 2.24 ロシアがウクライナへ軍事侵攻。
- 3.23 甲子園球場で鹿児島県立大島高校野球部が第94回選抜高校野球大会に出場。

- 7.18 「海の日」にあたり、海上保安協会奄美瀬戸内支部役員の茂野拓真様が、永年の海事功労で国土交通大臣表彰を受賞。



茂野様（前列左から2人目）

- 10.25 深夜、宇検村の枝手久島沖で作業船が座礁、巡視船「あまぎ」と海上保安庁の航空機が乗組員8人全員を救助。さらに、油防除専門の海上保安庁機動防除隊が現場に急行、11月3日までに船舶所有者が燃料油等の略すべてを回収。



作業船からヘリコプターで吊上げ救助

- 11.20 名瀬港観光バースで土木フェスタに併せて巡視船「あまぎ」を公開、1083名が来訪。



- 12.13 奄美群島クジラ・イルカ協会、奄美警察署、大島地区消防組合と奄美海上保安部が合同救助訓練等を実施。



合同救助訓練

✓ 2023(令和5)

- 1.9 名瀬港で巡視船「あまぎ」と「かいもん」の年頭訓練を実施、海中転落者の救助、「あまぎ」潜水士による船首からの飛び込み、船首ホーサー渡過、船首登はん訓練等に、100名を超える見学者から多くの励ましの声援と拍手。



「かいもん」から潜水士入水



潜水士が海中転落者を確保



「あまぎ」搭載艇から岸壁へ引き上げ



潜水士の船首飛び込み



潜水士の船首ホーサー渡過



潜水士の船首登はん

- 3.23 新型コロナウイルス感染症への規制緩和が進み、名瀬港に3年4ヶ月ぶりに国際クルーズ船が入港。入港したのは、セブンシーズエクスプローラ(バハマ船籍、55254ト)で10時30分に観光船バースに着岸、乗客約650人、18時には次の寄港地の那覇に向けて出港。



- 5. 16 豪雨災害に備え、名瀬港から古仁屋港まで、巡視船「あまぎ」による関係機関との合同海上搬送訓練を開催。訓練には陸上自衛隊(奄美・瀬戸内)、鹿児島県大島支庁、大島地区消防組合、奄美市、瀬戸内町、九州電力送配電㈱、古仁屋海上保安署と奄美海上保安部の10機関、約70名が参加。

訓練では豪雨災害で島内の道路寸断を想定、名瀬港で復旧のための人員の乗船と資機材を積込み、古仁屋港まで海上搬送、「あまぎ」から給水車両への飲料水の給水訓練を実施。



- 8. 13 沖永良部島の伊延港で巡視船「あまぎ」を一般公開、島民241名が船内外を見学。



- 11.11 奄美市の奄美振興会館で「奄美群島日本復帰 70 周年記念式典」が開催、第十管区海上保安本部長、奄美海上保安部長、古仁屋海上保安署長が参列。また、巡視船「あまぎ」と「かいもん」が満船飾と電光掲示盤で祝意を表した。



- 12.15 古仁屋保安署の監視取締艇「ぱるさあ (SS45)」(初代) が解役、新たに「ぱるさあ (SS12)」(2代目) が就役。



✓ 2024(令和 6)

- 1.1 令和 6 年能登半島地震発生
- 5.26 名瀬港周辺地域にて鹿児島県知事を訓練統監、奄美市長を副統監とし、鹿児島県、自衛隊、国交省、総務省、経産省、気象庁、警察、消防、海保、医師会、九州電力、建設業協会等各防災関係機関と地域住民が参加し、大規模地震、津波を想定した「令和 6 年度鹿児島県総合防災訓練」を開催。



- 6.22 徳之島の平土野港で9年ぶりに巡視船「あまぎ」を一般公開。



船内で天城町長と意見交換

- 7.22 海の日にあわせ、巡視船「あまぎ」船上において、海事功労者に対する表彰式を開催。

奄美海上保安部管内の表彰者は次のとおり。

◇国土交通大臣表彰

龍郷町立 円小学校 様 (多年にわたり円海岸の環境美化に貢献)

◇海上保安庁長官表彰

福島 英二 様 (海上安全指導員)

◇第十管区海上保安本部長表彰

米盛 弘幸 様 (海上防犯連絡員及び海上保安協力員)

武田 哲雄 様 (同上)

◇奄美海上保安部長表彰

元山 公知 様 (海上保安協会役員)

柳沢 良裕 様 (海上保安協力員)

重岡 美津子 様 (同上)

沖 忠弘 様 (同上)

柳 茂樹 様 (同上)



- 8.8 16:43 日向灘を震源とする地震発生(マグニチュード7.1、日南市で震度6弱)
19:15 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表

- 8.23 海難防止活動用グッズのデザイン作成奄美出身大学生3人(大島高校令和4年度卒業の上野さん、伊藤さん、松下さん)へ海上保安部長から感謝状贈呈。



同日、倉崎海岸で海難防止活動

- 9. 9 2024 ミス日本「海の日」有馬佳奈さんが創設 70 年を迎える奄美海上保安部を訪問。



- 9. 10 奄美海上保安部、古仁屋海上保安署創設 70 年

III 変遷

1953～	
奄美群島	<p>1953. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 奄美群島が日本復帰 <p>1954. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> 奄美群島復興特別措置法制定 <p>1954. 7</p> <ul style="list-style-type: none"> 名瀬港を重要港湾に指定 <p>1955</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方港湾に指定 亀徳港・平土野港・和泊港・与論港を港湾法の <p>1955. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 名瀬の大火で名瀬市街地の多くを焼失 <p>1956. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> 名瀬港に大型岸壁完成(長さ80m) <p>1956. 9</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併により現在の喜界町誕生 合併により瀬戸内町誕生 <p>1957. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 古仁屋港に吉田岸壁完成(長さ80m) <p>1958. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併により徳之島町誕生 <p>1958. 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 古仁屋港を港湾法の地方港湾に指定 <p>1958. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 瀬戸内町古仁屋の大火で市街地の多く焼失
海上保安部・海上保安署	<p>1953. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 航路標識を移管 名瀬航路標識事務所開設 奄美群島を鹿児島海上保安部が管轄 琉球政府から11.の <p>1954. 9</p> <ul style="list-style-type: none"> 古仁屋警備救難署を開設 奄美群島に名瀬警備救難署と <p>1955. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織改正、巡視艇「わかづき」配属 名瀬海上保安部に昇格、古仁屋海上保安署に 名瀬警備救難署に巡視艇「そよかぜ」配属 <p>1955. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼失 名瀬の大火で名瀬海上保安部庁舎(借上げ)が <p>1956. 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 名瀬警海上保安部単独庁舎完成 <p>1956. 11</p> <ul style="list-style-type: none"> 奄美大島海事合同庁舎が完成 名瀬海上保安部単独庁舎に増築して 名瀬海上保安部に名瀬通信所を開設 <p>1957. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合 名瀬海上保安部に名瀬航路標識事務所を <p>1958. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 徳之島に亀徳港南防波堤灯台が完成 <p>1959. 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 大島海峡の北東口に皆津埼灯台が完成 <p>1959. 5</p> <ul style="list-style-type: none"> 古仁屋海上保安署の新庁舎(初代)完成 <p>1959. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> 大島海峡の南東口に待網埼灯台が完成
国内外	<p>1954. 6</p> <ul style="list-style-type: none"> 青函連絡船洞爺丸遭難 <p>1959. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> 皇太子殿下が美智子さまと御成婚

1960～	
奄美群島	<p>1960.5 1961. 1961.9 1962.1 1962.2 1962.10 1963.1 1963.6 1964.3 1964.6 1968.5 1969.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チリ地震津波で奄美の家屋が床上・床下浸水 ・町制施行で笠利町と天城町が誕生 ・第二室戸台風被害、群島全域に災害救助法適用 ・町制施行で伊仙町が誕生 ・徳之島空港が開港 ・古仁屋漁港が第四種漁港に指定 ・町制施行で与論町が誕生 ・NHK名瀬テレビ中継放送所が開局 ・奄美群島復興特措法が振興特措法に改正 ・奄美空港が開港 ・喜界空港が開港 ・沖永良部空港が開港
海上保安部・海上保安署	<p>1961.3 1962.1 1962.2 1962.3 1965.3 1965.4 1966.3 1967.3 1969.10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大島海峡にオネン埼灯台が完成 ・第十管区海上保安本部が発足 ・与論島に与論港灯台が完成 ・奄美大島最北端に笠利埼灯台が完成 ・巡視船「あまみ」が奄美海上保安部に配属 ・与論島に与論港導灯が完成 ・徳之島に亀徳港導灯が完成 ・沖永良部島に和泊港導灯が完成 ・巡視艇「うらづき」配属 ・古仁屋海上保安署の巡視艇「わかづき」解役
国内外	<p>1960.9 1961.4 1963.11 1964.10 1965.12 1969.7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーテレビ放送が開始 ・ガガーリンが史上初の有人宇宙飛行 ・暗殺される ・ジョンFケネディ ・アメリカ合衆国大統領が ・東京オリンピックが開幕 ・日韓国交正常化 ・アポロ十一号月面着陸、人類が初めて月面へ

1970～

奄美群島

- 1970. 5 ・与論島の茶花港に岸壁(長さ80m)完成
- 1971. 7 ・大熊・早町・知名漁港が第四種漁港に指定
- 1973. 4 ・大島電力が九州電力と合併
- 1973. 7 ・沖永良部島の和泊港に五千ト岸壁が完成
- 1974. 1 ・名瀬港が関税法の不開港へ、二十年の歴史に幕
- 1974. 3 ・奄美群島振興特措法が振興開発特措法へ改正
- 1976. 5 ・与論空港が開港
- 1977. 9 ・奄美の日本画家 田中一村が逝去
- 1979. 5 ・与論港の供利地区に五千ト岸壁が完成

海上保安部・海上保安署

- 1970. 10 巡視艇「はつづき」配属
・古仁屋海上保安署の巡視艇「うらづき」解役
- 1971. 3 ・与論島東端に与論島赤埼灯台が完成
- 1971. 12 ・喜界島北端にトンビ埼灯台が完成
- 1972. 3 ・徳之島北東端に金見埼灯台と照射灯が完成
- 1972. 9 巡視艇「はるかぜ」就役
・名瀬海上保安部巡視艇「そよかぜ」解役
- 1973. 10 巡視艇「ほしかぜ」配属
・古仁屋海上保安署の巡視艇「はつづき」解役
- 1974. 3 ・徳之島の北西端に与名間島灯台が完成
・沖永良部島の北西端にヤクニヤ埼灯台が完成
- 1974. 10 新たに巡視艇「はるかぜ」就役
・名瀬海上保安部巡視艇「はるかぜ」解役
- 1975. 3 ・奄美大島の笠利湾の入り口に今井埼灯台が完成
・喜界島の南端にシツル埼灯台が完成
- 1976. 3 ・喜界島に湾港導灯が完成
・奄美大島の大和村に大山埼灯台が完成

国内外

- 1970. 3 ・日航機「よど号」事件
- 1972. 2 ・札幌オリンピック開幕
- 1972. 5 ・沖縄が日本復帰、沖縄県が発足
- 1972. 9 ・日中国交正常化
- 1975. 4 ・サイゴン陥落、ベトナム戦争終結
- 1976. 11 ・天皇陛下在位五十周年
- 1977. 7 ・領海が三海里から十二海里に拡大、
排他的経済水域も二百海里
- 1979. 1 ・アメリカ合衆国と中華人民共和国が国交回復

1980～

奄美群島

- 1980. 7
 - ・徳之島空港にジェット便が運航
- 1982. 2
 - ・名瀬港新港地区に1万ト2隻着岸用岸壁が完成
- 1984. 10
 - ・沖永良部島の伊延港に1万ト岸壁が完成
- 1985. 11
 - ・国道58号 本茶トンネル供用
- 1988. 3
 - ・宇宿漁港が第四種漁港指定
- 1988. 7
 - ・新奄美空港が開港、ジェット化
- 1989. 6
 - ・与論港の茶花地区に5千ト岸壁が完成
- 1989. 9
 - ・国道58号 三太郎トンネル供用

海上保安部・海上保安署

- 1981. 3
 - ・巡視艇「いそなみ」が名瀬海上保安部に配属
- 1981. 10
 - ・沖永良部島の知名港指向灯が完成
- 1988. 3
 - ・大島海峡北西口の曾津高埼灯台を建替え
- 1989. 3
 - ・与論島の与論港供利指向灯が完成

国内外

- 1983. 4
 - ・東京ディズニーランドが千葉県浦安市に開業
- 1983. 9
 - ・ソビエトがサハリンで大韓航空001便撃墜
- 1985. 3
 - ・筑波科学万博が開幕
- 1985. 8
 - ・日航ジャンボ機が群馬県の御巢鷹山に墜落
- 1986. 1
 - ・スペースシャトル「チャレンジャー号」爆発事故
- 1987. 4
 - ・国鉄民営化
- 1989. 1
 - ・昭和天皇崩御
- 1989. 4
 - ・消費税導入
- 1989. 11
 - ・東西ドイツのベルリンの壁が崩壊

1990～

奄美群島

1993. 11
・国道58号 朝戸トンネル供用

1995. 11
・国道58号 地蔵トンネル供用

海上保安部・海上保安署

1992. 3
・奄美大島の笠利町に赤木名港導灯が完成

1992. 9
・新たに巡視船「あまみ」(二代目)が就役
・名瀬海上保安部巡視船「あまみ」解役

1994. 3
・沖永良部島に伊延港導灯が完成

1994. 6
・覚せい剤大量密輸事件
・奄美大島でエキサイティング巻岐による

1994. 12
・徳之島で第八玉漁丸による大麻密輸事件

1995. 2
・喜界島に早町港東防波堤灯台が完成

1995. 10
・喜界島で大量コカイン漂着事件

1996. 3
・監視取締艇「ばるさあ」が古仁屋海上保安署配属

1996. 10
・新たに巡視艇「はるかぜ」が配属
・名瀬海上保安部巡視艇「はるかぜ」解役

1996. 11
・新たに巡視艇「ほしかぜ」が配属
・古仁屋海上保安署巡視艇「ほしかぜ」が解役

1997. 12
・奄美大島笠利沖で中国人集団密航事件

国内外

1990. 11
・天皇陛下即位の礼

1991. 1
・中東で湾岸戦争が勃発

1991. 6
・フィリピンのピナツボ山が今世紀最大の噴火
・長崎県の雲仙普賢岳で大規模火砕流

1993. 6
・皇太子殿下が雅子さまとご成婚

1994. 9
・関西国際空港が開港

1995. 1
・阪神淡路大震災

1995. 3
・地下鉄サリン事件

1996. 4
・沖縄の普天間基地の全面返還で日米合意

1996. 12
・ペルー日本国大使公邸占拠事件

1997. 1
・日本海でナホトカ号沈没、大量の流出油漂着

1998. 2
・長野冬季オリンピック開幕

2000～	
奄美群島	<p>2001. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道58号 新和瀬トンネル供用 <p>2003. 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇、皇后陛下が御出席 ・奄美群島日本復帰五十周年記念式典に <p>2005. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道58号 和光トンネル供用 <p>2006. 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併により奄美市が誕生 <p>2009. 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吐噶喇列島や奄美大島で皆既日食
海上保安部・海上保安署	<p>2001. 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古仁屋海上保安署新庁舎(一代目)完成 ・沖永良部島でコカイン漂着事件 <p>2001. 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州南西海域不審船事案発生、不審船からの銃撃で巡視船「あまみ」「きりしま」「いなさ」被弾 <p>2002. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜水士3名配置 ・巡視艇「いそなみ」が特定潜水士指定船に、 <p>2002. 9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州南西海域不審船事案の「長漁3705」引揚 <p>2003. 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名瀬港と周辺海域の警衛 ・奄美群島日本復帰50周年記念式典にあたり <p>2004. 3-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに巡視船「かいもん」が配属 ・巡視船「あまみ」が佐世保海上保安部へ配属替え <p>2007. 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名瀬海上保安部から奄美海上保安部に名称変更 <p>2009. 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに巡視艇「うけゆり」が古仁屋に配属 ・保安署巡視艇「ほしかぜ」が中部基地へ配属替え ・奄美海上保安部巡視艇「はるかぜ」と古仁屋海上
国内外	<p>2001. 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国原子力潜水艦に衝突され9名死亡 ・ハワイ沖で宇和島水産高校練習船「えひめ丸」が <p>2001. 11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅客機が激突 ・アメリカで大規模テロ、世界貿易センターに <p>2003. 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペースシャトル「コロンビア号」爆発事故 <p>2004. 10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県中越地震 <p>2005. 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府が尖閣諸島の魚釣島灯台を国有化

2010～

奄美群島

- 2010. 3
 - ・ 国道58号 勝浦トンネル供用
- 2010. 10
 - ・ 奄美大島全域で集中豪雨
- 2013. 12
 - ・ 奄美群島日本復帰六十周年
- 2015. 3
 - ・ 国道58号 網野子トンネル供用
- 2017. 4
 - ・ 三笠宮彬子女王殿下御出席
旗艦とする特攻艦隊戦没背負将士慰霊祭に
徳之島伊仙町犬田布岬で「第五十回戦艦大和を

海上保安部・海上保安署

- 2013. 12
 - ・ 古仁屋海上保安署へ配属
が奄美海上保安部へ配属
配属替え、奄美海上保安部巡視艇「いそなみ」が
古仁屋海上保安署巡視艇「うけゆり」が指宿へ
- 2016. 2
 - ・ 覚せい剤大量密輸事件
徳之島で第三無限丸と七海丸による
- 2017. 4
 - ・ 周辺海域を警衛
旗艦とする特攻艦隊戦没将士慰霊祭で
徳之島伊仙町犬田布岬で「第50回戦艦大和を
- 2019. 1
 - ・ 石井啓一国土交通大臣が奄美海上保安部を視察

国内外

- 2010. 9
 - ・ 尖閣諸島中国漁船衝突事件
- 2011. 3
 - ・ 東日本大震災
- 2012. 9
 - ・ 日本政府が尖閣諸島を国有化
- 2019. 5
 - ・ 天皇陛下御即位

2020～

奄美群島

- 2021. 7 ユネスコの世界自然遺産登録
奄美大島・徳之島・沖繩本島北部と西表島が
- 2021. 10 奄美群島に大量の軽石漂着開始
- 2022. 3 県道宮古崎トンネル開通
大島高校野球部が春の甲子園出場
- 2023. 10 「トライアスロン」徳之島開催
鹿児島国体開催「相撲」奄美大島
- 2023. 11 奄美群島の日本復帰七十周年記念式典
- 2023. 12 奄美群島の日本国復帰七十周年

海上保安部・海上保安署

- 2022. 3 奄美大島の笠利埼灯台が点灯六十周年
- 2022. 10 乗組員8人全員を救助
那覇航空基地の航空機と巡視船「あまぎ」等が
深夜、宇検村枝手久島沖で作業船が座礁、
- 2023. 4 どの「水難事故の救助に関する覚え書き」を改正
大島地区消防組合と奄美警察署と瀬戸内警察署
「いそなみ」へ変更
潜水指定船を、巡視船「あまぎ」から巡視艇
- 2023. 12 SS45解役、「ばるさあ」SS12就役
古仁屋海上保安署 監視取締艇「ばるさあ」
吐噶喇列島悪石島沖でフェリーとしま2が火災
奄美群島の海上保安業務七十周年
- 2024. 1 巡視船「あまぎ」に初めて海面救助員2名を指名
クロスが岸壁に衝突
沖永良部島和泊港でフェリークイーンコーラル
- 2024. 2 に関する覚え書きをそれぞれ改正
地区消防と沖永良部警察署との「水難事故の救助
徳之島地区消防と徳之島警察署、沖永良部与論
- 2024. 9 開設七十年
奄美海上保安部及び古仁屋海上保安署

国内外

- 2020. 2 新型コロナウイルス感染症のクラスターが確認
横浜港のダイヤモンドプリンセス号で
- 2020. 4 に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言
埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫及び福岡県
- 2022. 2 ロシアがウクライナへ軍事侵攻
- 2023. 5 新型コロナウイルス感染症が5類へ移行
- 2023. 10 鹿児島国体開催
- 2024. 1 令和6年能登半島地震発生
- 2024. 8 地震臨時情報（巨大地震注意）発表
日向灘沖M7.1地震発生に伴い「南海トラフ

IV 所属巡視船艇

- 奄美海上保安部
- 巡視艇「そよかぜ」 CL03
- 1955. 8 就役～1972. 9 解役

- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「わかづき」 PC19
- 1955. 8 就役～1969. 10 解役

- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「うらづき」 PC18
- 1969. 10 配属～1970. 10 解役

- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「はつづき」 PC11
- 1970. 10 配属～1973. 10 解役



- 奄美海上保安部
- 巡視船「あまみ」(初代) PM62
- 350トﾝ型
- 1965. 3 就役～1992. 9 解役



- 奄美海上保安部
- 巡視艇「はるかぜ」(初代) CL15
- 15m 型
- 1972. 9 配属～1974. 10 解役



- 奄美海上保安部
- 巡視艇「はるかぜ」(二代目) CL151
- 15m 型
- 1974. 10 就役～1996. 10 解役



- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「ほしかぜ」CL139(初代)
- 15m 型
- 1974. 10 就役～1996. 11 解役



- 奄美海上保安部
- 巡視船「あまみ」(二代目) PM95
- 350 トン型
- 1992. 9 就役～2004. 3 配属替(佐世保)



- 奄美海上保安部
- 巡視艇「はるかぜ」(三代目) CL92
- 20m 型
- 1996. 11 就役～2009. 3 配属替(中部基地)



- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「ほしかぜ」CL93(二代目)
- 20m 型
- 1996. 11 就役～2009. 3 配属替(四日市)



- 古仁屋海上保安署
- 監視取締艇「ぱるさあ」SS45(初代)
- 1996. 3 就役～2023. 12 解役



- 奄美海上保安部・古仁屋海上保安署
- 巡視艇「いそなみ」PC217（初代）
- 30m 型
- 1981. 3 就役～2014. 1 解役



- 奄美海上保安部
- 巡視船「かいもん」PS204
- 2004. 4 就役～



- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「うけゆり」CL152
- 20m 型
- 2009. 4 就役～2013. 12 配属替(指宿)



- 奄美海上保安部
- 巡視船「あまぎ」PL67
- 2013. 12 配属～

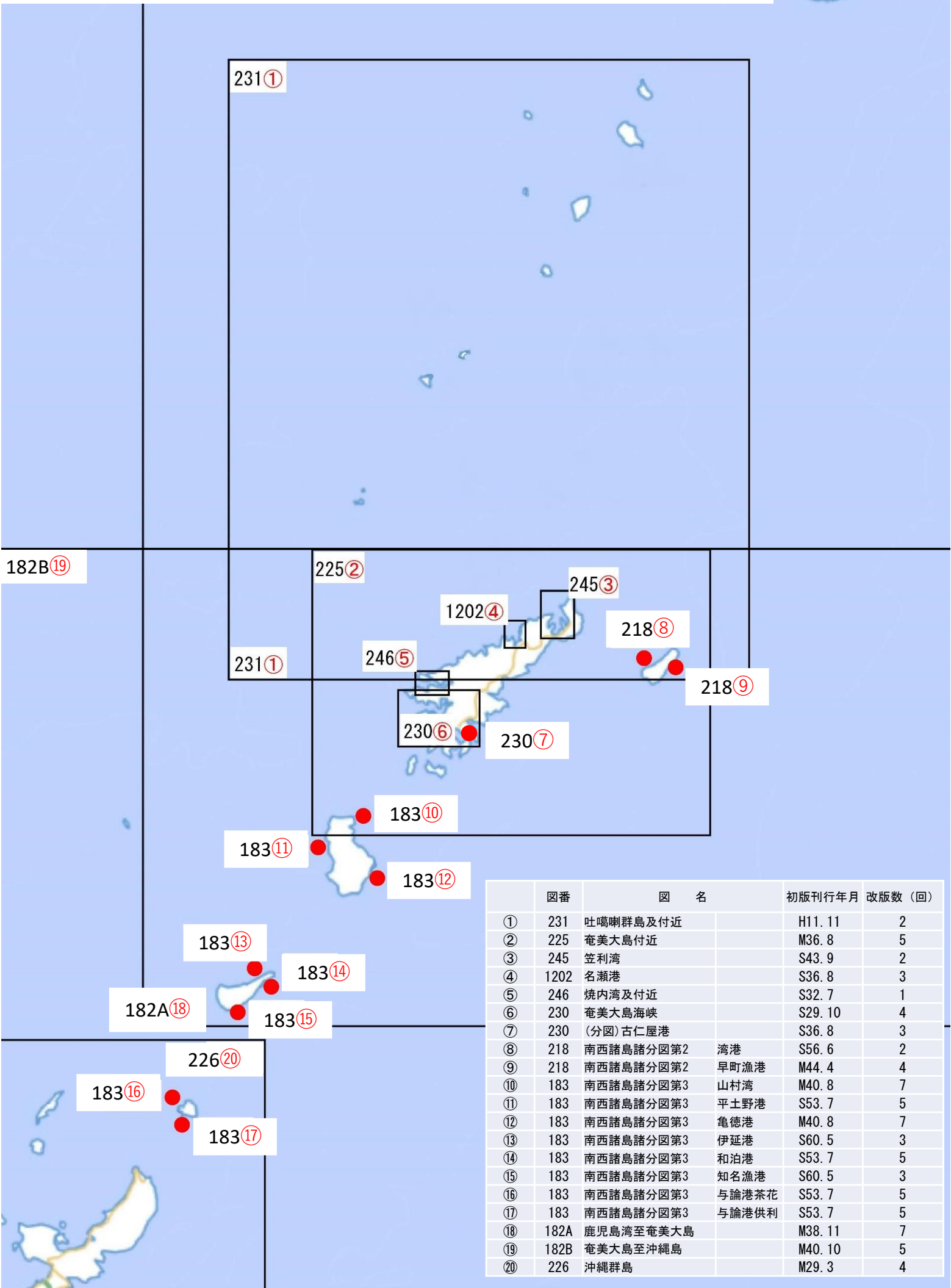
- 古仁屋海上保安署
- 巡視艇「いそなみ」PC122（二代目）
- 30m 型
- 2014. 1 就役～



- 古仁屋海上保安署
- 監視取締艇「ぼるさあ」SS12（二代目）
- 2023. 12 就役～



V 奄美群島周辺の海図



	図番	図名	初版刊行年月	改版数(回)
①	231	吐噶喇群島及付近	H11. 11	2
②	225	奄美大島付近	M36. 8	5
③	245	笠利湾	S43. 9	2
④	1202	名瀬港	S36. 8	3
⑤	246	烧内湾及付近	S32. 7	1
⑥	230	奄美大島海峡	S29. 10	4
⑦	230	(分図)古仁屋港	S36. 8	3
⑧	218	南西諸島諸分図第2 湾港	S56. 6	2
⑨	218	南西諸島諸分図第2 早町漁港	M44. 4	4
⑩	183	南西諸島諸分図第3 山村湾	M40. 8	7
⑪	183	南西諸島諸分図第3 平土野港	S53. 7	5
⑫	183	南西諸島諸分図第3 亀徳港	M40. 8	7
⑬	183	南西諸島諸分図第3 伊延港	S60. 5	3
⑭	183	南西諸島諸分図第3 和泊港	S53. 7	5
⑮	183	南西諸島諸分図第3 知名漁港	S60. 5	3
⑯	183	南西諸島諸分図第3 与論港茶花	S53. 7	5
⑰	183	南西諸島諸分図第3 与論港供利	S53. 7	5
⑱	182A	鹿児島湾至奄美大島	M38. 11	7
⑲	182B	奄美大島至沖縄島	M40. 10	5
⑳	226	沖縄群島	M29. 3	4

VI 奄美群島の航路標識



- 笠利埼灯台
- 1962. 3. 31 設置 奄美市笠利埼
- 光の届く距離 約 38km



- 竜郷港阿丹埼北東方照射灯
- 1974. 3. 23 設置 龍郷町(阿丹埼)
- 阿丹埼北東の暗礁を照射



- 赤木名港導灯
- 1992. 3. 19 設置 奄美市笠利町赤木名
- 光の届く距離 約 23km



- 今井埼灯台
- 1975. 3. 28 設置 龍郷町今井埼
- 光の届く距離 約 28km



- 梵論瀬埼灯台
- 1912. 11. 1 設置 奄美市有良
- 光の届く距離 約 10km



- 大山埼灯台
- 1976. 3. 18 設置 大和村大山埼
- 光の届く距離 約 22km



- 待網埼灯台
- 1959. 12. 18 設置 瀬戸内町待網埼
- 光の届く距離 約 10km



- 皆津埼灯台
- 1959. 1. 10 設置 瀬戸内町皆津埼
- 光の届く距離 約 22km



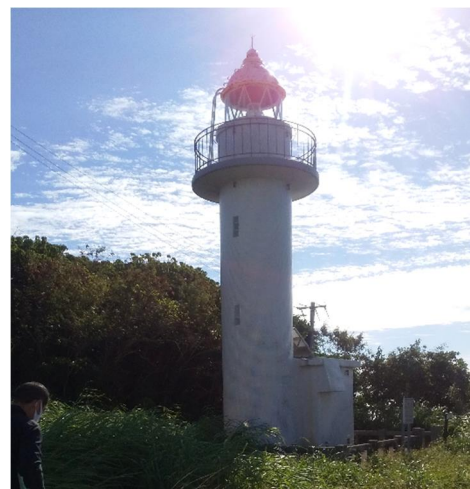
- 奄美瀬戸埼灯台
- 1971. 12. 5 設置 瀬戸内町瀬戸埼
- 光の届く距離 約 10km



- オネン埼灯台
- 1961. 3. 10 設置 瀬戸内町オネン埼
- 光の届く距離 約 14km



- トンビ埼灯台
- 1971. 12. 3 設置 喜界町トンビ埼
- 光の届く距離 約 33km



- シツル埼灯台
- 1975. 3. 25 設置 喜界町シツル埼
- 光の届く距離 約 22km



- 金見崎灯台
- 1972. 3. 15 設置 徳之島町金見崎
- 光の届く距離 約 22km



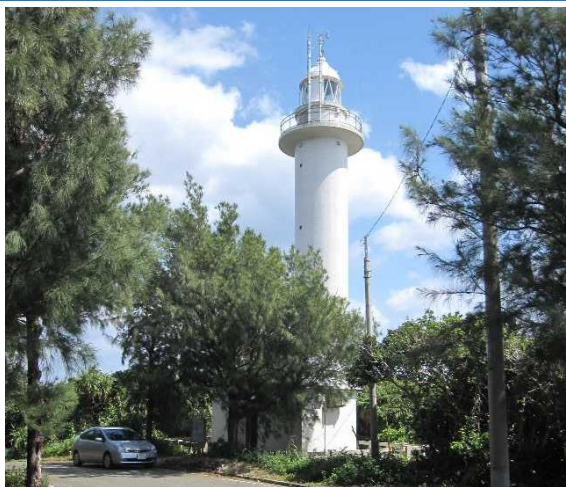
- 与名間崎灯台
- 1974. 3. 16 設置 天城町与名間崎
- 光の届く距離 約 22km



- 喜念崎灯台
- 1973. 2. 16 設置 伊仙町喜念崎
- 光の届く距離 約 22km



- 亀徳港導灯
- 1966. 3. 24 設置 徳之島町亀徳
- 光の届く距離 約 16km



- 国頭岬灯台
- 1973. 2. 12 設置 和泊町国頭岬
- 光の届く距離 約 32km



- 伊延港導灯
- 1994. 3. 19 設置 和泊町伊延
- 光の届く距離 約 23km



- ヤクニヤ埼灯台
- 1974. 3. 15 設置 知名町ヤクニヤ埼
- 光の届く距離 約 22km



- 和泊港導灯
- 1967. 3. 12 設置 和泊町和泊
- 光の届く距離 約 14km



- 知名港指向灯
- 1981. 10. 15 設置 知名町知名
- 光の届く距離 約 14km



- 与論島赤埼灯台
- 1971. 3. 3 設置 与論町赤埼
- 光の届く距離 約 22km



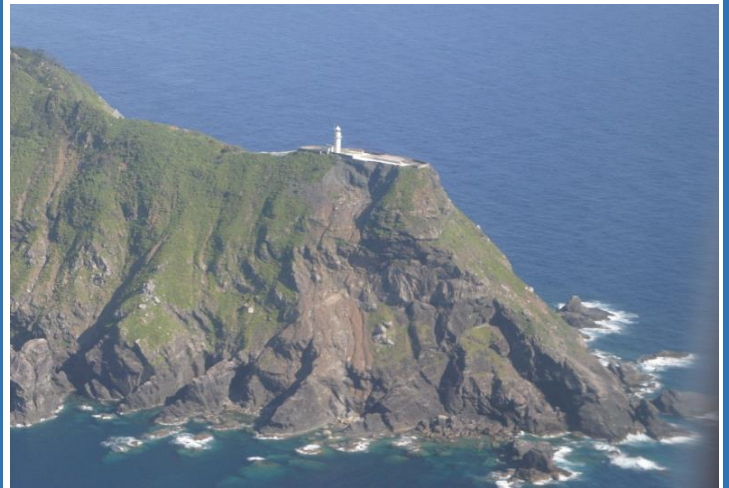
- 与論港灯台
- 1962. 2. 28 設置 与論町ハタンシ埼
- 光の届く距離 約 22km



- 与論港導灯
- 1965. 4. 1 設置 与論町茶花
- 光の届く距離 約 16km



- 与論港供利指向灯
- 1989. 3. 16 設置 与論町供利
- 光の届く距離 約 18km



- 曾津高崎灯台
- 1897. 11. 1 設置 瀬戸内町曾津高崎
- 光の届く距離 約 40km



- 名瀬港沖防波堤灯台
- 2016. 3. 22 設置 奄美市名瀬港
- 光の届く距離 約 14km



- 名瀬港東防波堤灯台
- 1997. 1. 13 設置 奄美市名瀬港
- 光の届く距離 約 9km



- 名瀬港西防波堤灯台
- 1989. 12. 25 設置 奄美市名瀬港
- 光の届く距離 約 9km



- 大熊港D防波堤灯台
- 2002. 10. 22 設置 奄美市大熊港
- 光の届く距離 約 6km



- 古仁屋港防波堤灯台
- 1965. 2. 13 設置 瀬戸内町古仁屋港
- 光の届く距離 約 9km



- 湾港北防波堤灯台
- 1999. 3. 26 設置 喜界町湾港
- 光の届く距離 約 14km



- 早町港東防波堤灯台
- 1995. 2. 10 設置 喜界町早町港
- 光の届く距離 約 9km



- 平土野港沖北防波堤灯台
- 1968. 10. 28 設置 天城町平土野港
- 光の届く距離 約 9km



- 亀徳港南防波堤灯台
- 1981. 2. 23 設置 徳之島町亀徳港
- 光の届く距離 約 9km



- 麦屋漁港指向灯
- 許可航路標識 与論町管理
- 2018. 3. 30 設置 与論町麦屋
- 光の届く距離 約 4km

VII 奄美群島の豊かで美しい海を守る海上保安官を奄美群島から

1 海上保安大学校



海上保安大学校
ホームページ

海上保安庁の幹部職員に必要な知識や技能を教授し、
心身の錬成を図るとともに、
海洋政策に関する調査研修をすることを目的とした、
広島県呉市にある教育機関です。

- 教育方針
1. 人格の陶冶とリーダーシップの涵養
 2. 高い教養と見識の修得
 3. 強靱な気力・体力の育成



本科

p18-21

- 受験資格…高校卒業後2年未満まで
(詳細はp60を参照)

- 教育期間…4年9カ月間

本科4年間、専攻科6カ月間、研修科(国際業務課程)3カ月間の計4年9カ月間の教育を受けます。本科卒業と同時に、学士(海上保安)の学位が取得できます。

【教育内容】

複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要かつ高度な専門能力を身につけるとともに、航海、機関、情報通信の各専攻に分かれ、海技免状などを取得するために必要な海事系の専門的な知識を習得します。
※カリキュラムの詳細はp18を参照

専攻科(6カ月間)

本科を卒業後、練習船こじまで世界一周の遠洋航海実習を行い、海外寄港地での関係機関の見学や市民との国際交流により見聞を広め、国際感覚を養います。

研修科(国際業務課程)(3カ月間)

専攻科修了後、実用英語能力、国際関係知識などの国際業務対応能力、初級幹部として必要な実務能力を習得します。

初任科

p22-23

- 受験資格…大学卒業後30歳未満まで
(詳細はp60を参照)

- 教育期間…2年間

初任科で1年間の教育を受けたのちに、特修科に編入され、さらに1年間、計2年間の教育を受けます。

【教育内容】

本科生と同様、複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要かつ高度な専門能力を短期間で身につけるとともに、航海、機関の各専攻に分かれ、海技免状を取得するために必要な海事系の専門的な知識を習得します。
※カリキュラムの詳細はp22を参照

特修科(1年間)

初任科修了後、特修科(現場経験を経て選抜試験に合格した者の課程)に編入し、初級幹部として必要となる学術や技能を身につけます。

2 海上保安学校



海上保安学校
ホームページ

海上保安業務に必要な知識と技能の習得、心身の錬成を行い、現場業務に即応できる海上保安官の育成を目的に設置された海上保安庁の教育機関です。
三方を海に囲まれた京都府舞鶴市にある学校です。



●受験資格…高校卒業後12年未満まで
(詳細はp61を参照)

●待遇………入学と同時に国家公務員(海上保安庁職員)として採用。給与支給。入学金、授業料不要(詳細はp62を参照)

4つの課程

一般課程

※2024年度海上保安学校学生(特別)採用試験は「船動理解システム課程」(航海コース・機関コース・主計コース・整備コース)で実施

- 航海コース ●機関コース ●主計コース
- 航空整備コース ※整備コースから名称変更
- 通信コース ※2025(令和7)年度4月開校

巡視船を主とする様々なフィールドで活躍する

●教育期間…1年間(4月または10月入学)

※通信コースは資格取得のため、卒業後、約4ヶ月間の研修

管制課程

日本の海上交通の安全を支える海の管制官

●教育期間…2年間(4月入学)

航空課程

日本の海を空から守る海上保安庁のパイロット

●教育期間…1年間(4月入学)
卒業後、約2年間の研修

海洋科学課程

海の探究者、海洋科学のプロフェッショナル

●教育期間…1年間(4月入学)